

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	東京電機大学
設置者名	学校法人 東京電機大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門科目	合計		
工学部	電気電子工学科	夜・通信	0	10	10	20	13	
	電子システム工学科	夜・通信			24	34	13	
	応用化学科	夜・通信			11	21	13	
	機械工学科	夜・通信			11	21	13	
	先端機械工学科	夜・通信			17	27	13	
	情報通信工学科	夜・通信			47	57	13	
工学部第二部	電気電子工学科	夜・通信		6	18	24	13	
	機械工学科	夜・通信			9	15	13	
	情報通信工学科	夜・通信			18	24	13	
理工学部	理工学科 理学系	夜・通信		8	12	20	13	
	理工学科 生命科学系	夜・通信			54	62	13	
	理工学科 情報システムデザイン学系	夜・通信			18	26	13	
	理工学科 機械工学系	夜・通信			11	19	13	
	理工学科 電子情報・生体医工学系	夜・通信			35	43	13	

	理工学科 建築・都市環境学系	夜・通信			26	34	13	
未来科学部	建築学科	夜・通信		10	19	29	13	
	情報メディア学科	夜・通信			28	38	13	
	ロボット・メカトロニクス学科	夜・通信			30	40	13	
システムデザイン工学部	情報システム工学科	夜・通信		10	22	32	13	
	デザイン工学科	夜・通信			21	31	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

公表方法：東京電機大学 web サイト
<https://www.dendai.ac.jp/about/tdu/information/r07.html>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	東京電機大学
設置者名	学校法人 東京電機大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

公表方法：東京電機大学 web サイト https://www.dendai.ac.jp/about/gakuen/trustee/
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	出版社 代表取締役会長	2025 年 5 月 27 日～ 2029 年度定時評議員会終結の時	外部からの視点での業務執行監視
非常勤	一般社団法人東京電機大学校友会 理事長	2025 年 5 月 27 日～ 2029 年度定時評議員会終結の時	校友連携
(備考) 4名のうち2名を記載			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東京電機大学
設置者名	学校法人 東京電機大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) ・授業計画(シラバス)の作成過程 シラバスの記載要領について、東京千住キャンパスでは工学部、工学部第二部、未来科学部、システムデザイン工学部合同教学委員会にて、理工学部では理工学部教学委員会にて審議等の後、科目担当教員へシラバスの作成を依頼している。併せて、担当教員以外の第三者がシラバス記載内容をチェックしている。 シラバスの記載要領に、授業方法及び内容、到達目標、成績評価の方法とその基準として、「授業コード」「科目ナンバリング」「授業名」「英文名」「教室」「目的概要」「授業形態」「達成目標」「関連科目」「履修条件」「教科書名」「参考書名」「評価方法」「課題に対するフィードバック方法」「学習・教育目標との対応(工学部、工学部第二部、未来科学部、システムデザイン工学部)」「アクティブラーニングの実施」「ICTの活用」「実践的教育科目」「自由記載欄」「第1週オンデマンド講義情報(工学部第二部)」「授業概要・テーマ・講義内容・講義事前事後学習」「eメールアドレス」「質問への対応(オフィスアワー等)」「備考」の項目を記載し、公表している。 ・授業計画の作成・公表時期 工学部・工学部第二部・未来科学部・システムデザイン工学部 作成時期：1月下旬から2月中旬。その後、公表までの間で担当者以外の第三者がシラバスチェックを実施する。 公表時期：3月中旬(授業開始前) 理工学部 作成時期：2月上旬から3月上旬。その後、公表までの間で担当者以外の第三者がシラバスチェックを実施する。 公表時期：3月下旬(授業開始前)	
授業計画書の公表方法	東京電機大学学生ポータルサイト https://portal.sa.dendai.ac.jp/uprx/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

各科目の評価方法は、シラバス「評価方法」の項目に具体的に記載されている。

例：中間考査：期末考査：レポート＝3：3：4

シラバスの「達成目標」1. が40%、2. が30%、3. が30%など。

学力考査は、筆記試験（学期末、中間、毎回の授業内など）やレポートで実施している。卒業論文は、卒業研究科目を配当している。各指導教員のもとでテーマに沿った指導を受け、実験・ミーティングを重ね、最終的に研究発表を実施し、評価並びに単位認定を実施している。

また、学生が成績評価について疑問を持った場合には、科目担当教員に確認できる制度を導入しており、評価の適切性確保に努めている。

成績評価基準（評価評点・摘要成績評価基準）は、以下のとおり。

・工学部・工学部第二部・未来科学部・システムデザイン工学部

評価	評点・摘要		成績評価基準
S	90点～100点	合格 (単位修得)	講義・実験・実習内容を十分に理解し、自在に応用できる水準にあり、より高度な内容に進むことができる。
A	80点～89点		講義・実験・実習内容を理解し、応用できる水準にあり、より高度な内容に進むことができる。
B	70点～79点		講義・実験・実習内容を知識として身につけ、部分的ではあるが応用できる水準にある。しかし、より高度な内容に進むためには、自己学習をしておくことが望ましい。
C	60点～69点		シラバスに記載されている達成目標の最低水準に達している。しかし、習得した知識を応用し、より高度な内容に進むためには、十分な自己学習を要する。
RN・RS・RA・RB・RC	(資格取得、他大学等の単位を認定した場合)		RS・RA・RB・RCの成績評価基準は、上記S・A・B・Cの成績評価基準に準ずる。
D	0点～59点	不合格 (単位未修得)	シラバスに記載の達成目標を満たしていない。
-			学力考査を受験しない場合や、授業への出席状態が悪い場合など、履修を途中で放棄したとみなされた。

・理工学部

評価	評点・摘要		成績評価基準
S	90点～100点	合格 (単位修得)	当該科目の到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている。
A	80点～89点		当該科目の到達目標を十分に達成し、優秀な成績を修めている。
B	70点～79点		当該科目の到達目標を十分に達成し、妥当と認められる成績を修めている。
C	60点～69点		当該科目の到達目標を最低限達成した成績を修めている。
R	(認定された科目)		以下のうち、当該科目の到達目標を満たしていると認定されたもの。 ・単位互換等で他大学より取得した単位 ・編入学・再入学・転学部等において、入学前に取得した単位 ・本学部で指定する資格等の取得
D	0点～59点	不合格 (単位未修得)	当該科目の到達目標を達成していない。
-			試験を受験していない、もしくはレポートの不提出などで当該科目を放棄したとみなされるか、評価できない。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)
成績順位の算出には、GPA (Grade Point Average) を用いている。

・G P A の計算式

$$\text{GPA} = \frac{(\text{S 評価の単位数}) \times 4 + (\text{A 評価の単位数}) \times 3 + (\text{B 評価の単位数}) \times 2 + (\text{C 評価の単位数}) \times 1}{\text{履修登録単位の総和}}$$

履修登録単位の総和

評価	ポイント	評点 (100 点法)
S	4	90～100
A	3	80～89
B	2	70～79
C	1	60～69
D	0	0～59
—	0	放棄

- ・自由科目、R、RN 評価は計算に含まない。
- ・履修中の科目は含まず、評価が確定した科目を対象とする。
- ・不合格となった科目は、再履修し、評価が確定した段階で再計算する。
- ・GPA の値は小数点第 4 位を四捨五入する。最高値は 4 となる。
- ・早期卒業・履修制限を超えて履修登録を許可する評価基準・大学院への内部進学等の判定で使用する。
- ・学生アドバイザーによる学修指導で利用する。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

学生要覧、東京電機大学 web サイト
<https://www.dendai.ac.jp/about/campuslife/youran/>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

学位授与の方針(ディプロマポリシー)は、次のとおり学生要覧、東京電機大学 web サイトで公表している。

また、各学部の方針に基づき各学科、学系の学位授与の方針を定め、本学部規則で定める履修要件並びに本学学則で定める卒業要件を満たした学生に対し、教授会での審議を経て卒業を認定している。

・工学部

工学部に所定の期間在学し(※)、工学部の教育目標を達成するために開設した各学科の授業科目を履修して所定の単位を修得し、以下の知識、能力、姿勢を身につけた学生に対して卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与します。

(1) 実学尊重を旨とし、科学技術の中核をなす工学の、電気電子工学、電子システム工学、応用化学、機械工学、先端機械工学、情報通信工学の6分野のうち、1つの専門分野の科学技術の知識と技術を持つこと。(DP1)

(2) 安心・安全で快適な社会の発展に貢献できる上記の工学的6分野のうち、自らの専門的知識と専門的技術を活用し、さまざまな課題に挑戦し、解決する実践力を持つこと。(DP2)

(3) 理工系の幅広い基礎知識を持つと共に、常に新しい知識と技術の獲得に努める積極的な姿勢を持つこと。(DP3)

(4) 「技術は人なり」の精神のもと、科学技術と人間・社会との関わりを理解し、科学技術者として、また良識のある社会人として必要な教養、キャリア意識、倫理観を持つこと。(DP4)

(5) グローバルな視野を持ち、将来、科学技術者として必要なコミュニケーション力などの汎用的能力を身につけること。(DP5)

※標準修業年限は4年。

・工学部第二部

工学部第二部は、本学部内に所定の期間在学し(※)、工学部第二部の教育目標を達成するために開設した各学科の授業科目を履修して所定の単位を修得し、以下の知識、能力、姿勢を身につけた学生に対して卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与します。

(1) 実学尊重を旨とし、科学技術の中核をなす工学の、電気電子工学、機械工学、情報通信工学の3分野のうち、1つの専門分野の実践的な知識と技術を持つこと。(DP1)

(2) 安全で快適な社会の発展に貢献できる上記の工学的3分野のうち、自らの専門的知識と専門的技術を活用し、さまざまな課題に挑戦し、解決する実践力を持つこと。(DP2)

(3) 理工系の基礎知識を持つと共に、常に新しい知識と技術の獲得に努める積極的な姿勢を持つこと。(DP3)

(4) 「技術は人なり」の精神のもと、科学技術と人間・社会との関わりを理解し、実践的技術者として、また良識のある社会人として必要な教養、キャリア意識、倫理観を持つこと。(DP4)

(5) グローバルな視野を持ち、将来、実践的技術者として必要なコミュニケーション力などの汎用的能力を身につけること。(DP5)

※標準修業年限は4年。

・未来科学部

未来科学部に所定の期間在籍し(※)、本学部の教育目標を達成するために開設した各学科の授業科目を履修して所定の単位を修得し、以下の自ら問題を解決し解決する能力(プロの能力)と広い視野とコミュニケーション能力を身につけた学生に対して

卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与します。

（1）実学尊重を旨とし、科学技術の礎となる建築学（住）、情報メディア学（知）、ロボット・メカトロニクス学（動）の3分野のうち、1の専門分野の科学技術の知識と技術を持つこと。（DP1）

（2）安心・安全で快適な生活空間を作り出す「住・知・動」の3分野のうち、自らの専門的知識と専門的技術を活用し、様々な課題に挑戦し、解決する実践力を持つこと。（DP2）

（3）理工系の幅広い基礎知識を持つと共に、常に新しい知識の獲得に努める積極的な姿勢を持つこと（DP3）

（4）「技術は人なり」の精神のもと、科学技術と人間・社会との関わりを理解し、科学技術者として、また良識のある社会人として必要な教養、キャリア意識、倫理観を持つこと。（DP4）

（5）グローバルな視野を持ち、将来、科学技術者として必要なコミュニケーション能力などの汎用的能力を身につけること。（DP5）

※標準修業年限は4年

・システムデザイン工学部

システムデザイン工学部に所定の期間在学し（※）、システムデザイン工学部の教育目標を達成するために開設した各学科の授業科目を履修して所定の単位を修得し、以下の知識、能力、姿勢を身につけた学生に対して卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与します。

（1）実学尊重を旨とし、システムデザイン工学の礎となる情報システム工学及びデザイン工学2分野のうち、1つの専門分野の科学技術の知識と技術を持つこと。（DP1）

（2）課題を自ら認識し、自らの専門的知識と技術の活用と他分野の知識・技術との統合により、さまざまな課題に挑戦し、解決する実践力を持つこと。（DP2）

（3）システムデザイン工学の学修に必要な、理工系の幅広い基礎知識を持つと共に、常に新しい知識の獲得に努める積極的な姿勢を持つこと。（DP3）

（4）「技術は人なり」の精神のもと、科学技術と人間・社会との関わりを理解し、価値観の変化への対応力を持つこと。科学技術者として、また良識のある社会人として必要な教養、キャリア意識、倫理観を持つこと。（DP4）

（5）グローバルな環境のなかで、多様な価値観を受け入れ、技術者として行動できるコミュニケーション能力を身につけること。（DP5）

※標準修業年限は4年。

・理工学部

理工学部部に所定の期間在学し（※）、卒業に必要な単位を修得して、次の学修成果を上げた者に対して、学士の学位を授与します。

（1）実学尊重を旨として、理学、生命科学、情報学、機械工学、電子工学、建築・都市環境学の理工学6分野のうち、主となる専門分野（主コース）と副となる専門分野（副コース）の科学技術の知識・技術をもつこと。

（2）自立した発想のもとに解くべき課題を見つけ出す能力をもつとともに、専門的知識と技術を活用してその課題を解決するための実践力、コミュニケーション能力をもつこと。

（3）科学技術社会の永続的発展に寄与することができる理工学の幅広い基礎知識をもつこと。

（4）「技術は人なり」の精神のもと、倫理観のある科学技術者及び人間性豊かな社会人として必要な素養を身につけること。

（5）グローバルな環境でコミュニケーションをとることができる基本的な語学力と広い教養を身につけること。

※標準修業年限は4年。

・工学部（電気電子工学科を除く）・未来科学部（建築学科を除く）・システムデザイン工学部の卒業条件

区分		単位数	備考
共通教育科目	人間科学科目	16	技術者教養科目2単位 グローバル教養科目2単位を含む
	英語科目	8	
	工学基礎科目	18	
専門教育科目	専門科目	78	
任意に選択し修得した科目		4	
合計		124	自由科目は含まない

・工学部 電気電子工学科の卒業条件

区分		単位数	備考
共通教育科目	人間科学科目	16	技術者教養科目2単位 グローバル教養科目2単位を含む
	英語科目	8	
	工学基礎科目	18	
専門教育科目	専門科目	82	
任意に選択し修得した科目		—	
合計		124	自由科目は含まない

・工学部第二部の卒業条件

区分		単位数	備考
共通教育科目	人間科学科目	8	
	英語科目	6	
専門教育科目	専門科目	86	
任意に選択し修得した科目		24	
合計		124	自由科目は含まない

・未来科学部 建築学科の卒業条件

区分		単位数	備考
共通教育科目	人間科学科目	16	技術者教養科目2単位 グローバル教養科目2単位を含む
	英語科目	8	
	工学基礎科目	18	
専門教育科目	専門科目	82	
任意に選択し修得した科目		4	
合計		128	自由科目は含まない

・理工学部の卒業要件

区分		単位数	備考
共通教育科目	人間形成科目	16	
	英語科目	8	
専門教育科目	技術者倫理	2	

	数学	6	
	自然科学技術	8	
	情報	4	
	学系共通科目	8 0	
	コース専門科目		
合計		1 2 4	自由科目は含まない
卒業の認定に関する 方針の公表方法		学生要覧、東京電機大学 web サイト https://www.dendai.ac.jp/about/campuslife/youran/	

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	東京電機大学
設置者名	学校法人 東京電機大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.dendai.ac.jp/about/gakuen/jigyo/r6.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.dendai.ac.jp/about/gakuen/jigyo/r6.html
財産目録	https://www.dendai.ac.jp/about/gakuen/jigyo/r6.html
事業報告書	https://www.dendai.ac.jp/about/gakuen/jigyo/r6.html
監事による監査報告(書)	https://www.dendai.ac.jp/about/gakuen/jigyo/r6.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 学校法人東京電機大学 2025(令和7)年度事業計画書 対象年度: 2025(令和7)年度)
公表方法: https://www.dendai.ac.jp/about/gakuen/jigyo/r7.html
中長期計画(名称: 学校法人東京電機大学中期計画~TDU Vision2028~ 対象年度: 2024(令和6)年度~2028(令和10)年度)
公表方法: https://www.dendai.ac.jp/about/gakuen/vision2028.html

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 東京電機大学 web サイト https://www.dendai.ac.jp/about/tdu/valuation/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 東京電機大学 web サイト https://www.dendai.ac.jp/about/tdu/valuation/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 工学部
教育研究上の目的（公表方法：学生要覧、東京電機大学 web サイト https://www.dendai.ac.jp/about/campuslife/youran/tokyo_senju.html ）
（概要） 工学部は、本学の建学の精神「実学尊重」、教育・研究理念「技術は人なり」に基づき、現代社会の基幹を成す科学技術分野において、過去から現代に至る「知」を継承し、さらに次世代に必要とされる新たな「知」と「技術」を創成します。 すなわち、現代社会の基幹を構成し将来に亘って必要とされる科学技術分野において、様々な状況に順応し、安全で快適な社会の発展に貢献できる優秀な技術者を養成することを目的とします。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：東京電機大学 web サイト https://www.dendai.ac.jp/about/undergraduate/kougaku/policies/ ）
（概要） 工学部 工学部に所定の期間在学し（※）、工学部の教育目標を達成するために開設した各学科の授業科目を履修して所定の単位を修得し、以下の知識、能力、姿勢を身につけた学生に対して卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与します。 （1）実学尊重を旨として、科学技術の中核をなす工学の、電気電子工学、電子システム工学、応用化学、機械工学、先端機械工学、情報通信工学の 6 分野のうち、1 つの専門分野の科学技術の知識と技術を持つこと。（DP1） （2）安心・安全で快適な社会の発展に貢献できる上記の工学的 6 分野のうち、自らの専門的知識と専門的技術を活用し、さまざまな課題に挑戦し、解決する実践力を持つこと。（DP2） （3）理工系の幅広い基礎知識を持つと共に、常に新しい知識と技術の獲得に努める積極的な姿勢を持つこと。（DP3） （4）「技術は人なり」の精神のもと、科学技術と人間・社会との関わりを理解し、科学技術者として、また良識ある社会人として必要な教養、キャリア意識、倫理観を持つこと。（DP4） （5）グローバルな視野を持ち、将来、科学技術者として必要なコミュニケーション力などの汎用的能力を身につけること。（DP5） ※標準修業年限 4 年 電気電子工学科 電気電子工学科は、本学部の学位授与方針をもとに、本学に所定の期間（※）在学して、卒業に必要な単位を修得し、次の学修成果を上げた者に対して学士の学位（工学）を授与します。 （1）実学尊重を旨として、電気電子工学の、電力・電気機器分野、電子システム分野、電子デバイス分野などの専門分野の科学技術の知識と技術を持つこと。（DP1） （2）電気電子工学分野の専門知識と技術を活用し、さまざまな課題に挑戦し、解決する実践力と、深い考察力を持つこと。（DP2） （3）理工系の幅広い基礎知識を持つと共に、常に新しい知識と技術の獲得に努める積極的な姿勢を持つこと。（DP3） （4）「技術は人なり」の精神のもと、科学技術と人間・社会との関わりを理解し、科学

技術者として、また良識ある社会人として必要な教養、キャリア意識、社会に対する技術の責任を自覚する能力（技術者倫理）を持つこと。（DP4）

（5）グローバルな視野を持ち、一般教養、外国語を含めた基礎的なコミュニケーション能力やプレゼンテーション力、チームワークで問題を解決できる能力、デザイン能力などの汎用的能力を身につけていること。（DP5）

※標準修業年限 4 年

電子システム工学科

電子システム工学科では、あらゆる産業分野で広く活躍できる技術者を育成し、また社会に貢献できる創造力豊かな電気電子工学分野の専門技術者の輩出を目指しています。特に、人類の幸福、福祉とは何かについて考える能力と素養の修得を基礎として、将来、電気電子工学の何れの分野に進んだ場合でも柔軟に対応できる専門の基礎学力を十分に習得したうえで、広範な研究分野の発展に寄与できる広い視野を持ち、さらに、造詣の深い専門分野を有し、かつ外国語を含めたコミュニケーション能力、主体的かつ創造的なデザイン能力とプロジェクト遂行能力などを併せ持つ技術者・研究者の育成を教育目標としています。

工学部の電子システム工学科は、本学科の学位授与方針をもとに、本学に所定の期間（※）在学して、卒業に必要な単位を修得し、次の学修成果を上げた者に対して学士の学位を授与します。

（1）実学尊重を旨として、科学技術の中核をなす電気電子工学分野の知識と技術を持つこと。特に、電子・光・情報分野に関する知識、並びに深い考察力と課題解決力を兼ねること。（DP1）

（2）安心・安全で快適な社会の発展に貢献できる電気電子工学分野の専門的知識と専門的技術を活用し、さまざまな課題に挑戦し、解決する実践力を持つこと。（DP2）

（3）理工系の幅広い基礎知識を持つと共に、常に新しい科学技術の知識と技術の獲得に努める積極的な姿勢を持つこと。（DP3）

（4）「技術は人なり」の精神のもと、科学技術と人間・社会との関わりを理解し、科学技術者として、また良識ある社会人として必要な教養、キャリア意識、倫理観を持つこと。（DP4）

（5）グローバルな視野を持ち、将来、科学技術者として必要なコミュニケーション力などの汎用的能力を身につけること。（DP5）

※標準修業年限 4 年

応用化学科

応用化学科は、工学部の学位授与方針をもとに、本学に所定の期間（※）在学して、卒業に必要な単位を修得し、次の学修成果を上げた者に対して学士の学位（工学）を授与します。

（1）実学尊重を旨として、科学技術の中核をなす工学のうち、応用化学分野における科学技術の知識と技術を持つこと。（DP1）

（2）安全・快適で持続可能な社会の構築に貢献できる応用化学分野における専門的知識と専門的技術を活用し、さまざまな課題に挑戦し、解決する実践力を持つこと。（DP2）

（3）理工系の幅広い基礎知識を持つと共に、常に新しい知識と技術の獲得に努める積極的な姿勢を持つこと。（DP3）

（4）「技術は人なり」の精神のもと、科学技術と人間・社会との関わりを理解し、科学技術者として必要な教養、キャリア意識、倫理観を持つこと。（DP4）

（5）グローバルな視野を持ち、将来、科学技術者として必要なコミュニケーション力などの汎用的能力を身につけること。（DP5）

※標準修業年限 4 年

機械工学科

機械工学科に所定の期間在学し（※）、本学科の教育目標を達成するために開設した授業科目を履修して所定の単位を修得し、以下の知識、能力、姿勢を身につけた学生に対して卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与します。

（１）実学尊重を旨として、科学技術の中核をなす工学分野の１つである機械工学の科学技術の知識と技術を持つこと。（DP1）

（２）安心・安全で快適な社会の発展に貢献できる機械工学の専門的知識と専門的技術を活用し、さまざまな課題に挑戦し、解決する実践力を持つこと。（DP2）

（３）理工系の幅広い基礎知識を持つと共に、常に新しい知識と技術の獲得に努める積極的な姿勢を持つこと。（DP3）

（４）「技術は人なり」の精神のもと、科学技術と人間・社会との関わりを理解し、科学技術者として、また良識ある社会人として必要な教養、キャリア意識、倫理観を持つこと。（DP4）

（５）グローバルな視野を持ち、将来、科学技術者として必要なコミュニケーション力などの汎用的能力を身につけること。（DP5）

※標準修業年限 4 年

先端機械工学科

先端機械工学科は、工学部の学位授与方針をもとに、本学に所定の期間（※）在学して、卒業に必要な単位を修得し、次の学修成果を上げた者に対して学士（工学）の学位を授与します。

（１）実学尊重を旨として、従来からの機械工学の専門分野に加え、機械工学における先端的な周辺分野の科学技術の知識と技術を持つこと。（DP1）

（２）機械工学及びその先端的な周辺分野の知識と技術を活用し、さまざまな課題に挑戦し、解決する実践力を持つこと。（DP2）

（３）理工系の幅広い基礎知識を持つと共に、常に新しい知識と技術の獲得に努める積極的な姿勢を持つこと。（DP3）

（４）「技術は人なり」の精神のもと、科学技術と人間・社会との関わりを理解し、科学技術者として必要な教養、キャリア意識、倫理観を持つこと。（DP4）

（５）グローバルな視野を持ち、将来、科学技術者として必要なコミュニケーション力などの汎用的能力を身につけること。（DP5）

※標準修業年限 4 年

情報通信工学科

情報通信工学科は、工学部の学位授与方針をもとに、本学に所定の期間（※）在学して、卒業に必要な単位を修得し、次の学修成果を上げた者に対して学士の学位を授与します。

（１）実学尊重を旨として、情報通信工学における「情報・コンピュータ技術」と「通信・メディア処理技術」の両分野に関する知識と技術が身についていること。（DP1）

（２）自発性、問題解決能力や実践力、新技術に柔軟に対応し受容するための実践的な適応能力、かつ深い考察力を兼ね備えていること。（DP2）

（３）工学全般に関する広い知識と理解力を兼ね備えていること。（DP3）

（４）「技術は人なり」の精神のもと、科学技術と人間・社会との関わりを理解し、科学技術者として、また良識ある社会人として必要な教養、キャリア意識、倫理観を持つこと。

(DP4) (5) グローバルな視野を持ち、将来、科学技術者として必要なコミュニケーション力などの汎用的能力を身につけること。(DP5) ※標準修業年限 4 年
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：東京電機大学 Web サイト https://www.dendai.ac.jp/about/undergraduate/kougaku/policies/ ）
(概要) 工学部 工学部は、本学部の教育目標を達成するため、「手厚いサポートのある基礎教育」（安心教育）、「充実した実験、実習、演習、ワークショップ」（実力教育）、さらに「幅広い専門科目と資格関連科目」（飛躍教育）の 3 段階で教育課程を編成し、実施します。 (1) 実学尊重を旨とし、工学の 6 つの専門分野において、現代的ニーズを意識した幅広い専門科目を用意し、学科ごとにその教育目標を達成させるために講義、演習、実験・実習を体系的に配置します。また、成績優秀者や学習意欲の高い学生には、大学院の先取り科目を設置すると共に、各種の資格取得を目指す学生には、資格関連科目（教職課程科目を含む）を配置します。（安心・実力・飛躍教育） (2) 専門知識と専門技能を活用して課題解決ができる能力を培うために、多数の実験・実習・ワークショップ科目を配置します。（実力教育） (3) 理工系の基礎知識を涵養するために、幅広く物理、化学、生物などの共通教育科目を配置します。また、数学、英語科目では習熟度別クラスで基礎学力を固めます。（安心教育） (4) キャリア科目やインターンシップを配置し、キャリア意識を培うとともに、「技術は人なり」の精神のもと、豊かな人間性、科学技術者としての倫理性を培うことを目的として人間理解、社会理解、技術者教養などの科目群のもとに人間科学科目を配置します。（安心・実力教育） (5) グローバルな環境で意思疎通ができる能力を涵養する科目を配置すると共に、英語科目のみならずコミュニケーション力などの汎用的能力を培う科目を配置します。（実力・飛躍教育） 電気電子工学科 電気電子工学科は、本学科の教育目標を達成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成し、実施します。 (1) 実学尊重を旨とし、電気電子工学分野の基礎理論・知識を確実に修得するため、電気回路系科目、電磁気学系科目、電子回路系科目、電気数学系科目を必修科目として低学年に配置すると共に、基礎科目として修得するのが望ましい科目を選択科目として配置します。 また、重要な基礎科目については、講義に加え演習も行います。さらに、基礎応用科目として、電力・電気機器分野、電子システム分野、電子デバイス分野の 3 分野の科目を、高学年の選択科目として配置します。また、基礎的諸現象をより深く理解し、測定装置の操作方法、実験の進め方、データの取り扱いなどを習得するため、2 年次及び 3 年次に実験科目を配置します。 成績優秀者や学習意欲の高い学生には、大学院の先取り科目を配置すると共に、電気主任技術者をはじめとする電気電子工学分野の重要な資格取得のための科目に加え、工業及び情報の教職科目を配置します。 (2) 電気電子工学分野への入り口として、講義、実験、プレゼンテーションを一体化した、リテラシー科目を配置します。また、もの作りのための創意工夫を通してデザイン能力の基礎を涵養するためのワークショップ科目を 1 年次に、身につけた専門知識と技能を活用して、継続的に課題に取り組む能力を培うと共に、チームワークで問題を解決する能

力を涵養するためのワークショップ科目を4年次に配置します。

(3) 電気電子工学分野の基盤となる数学や自然科学科目を配置します。数学では、特に重要な微分積分や線形代数に関する科目を必修とします。さらに、プログラミングやコンピュータの基礎と応用を学ぶための科目を配置します。なお、数学、英語科目などでは習熟度別クラスで基礎学力を固めます。

(4) 技術者として将来活躍するための基盤として、「技術は人なり」の精神のもと、豊かな人間性や科学技術者としての倫理観を培うことを目的とした科目群を人間科学科目として配置します。特に、技術者として重要となる倫理的行動規範を修得するために、技術者倫理科目を最低1科目必修として配置します。さらに、キャリア関連科目やインターンシップなどの、キャリア意識を培うための科目を配置します。

(5) 異文化理解を促進し、グローバルな環境で意思疎通ができる能力を涵養するために、英語科目に加え、グローバル教養科目を最低1科目必修として配置します。また、コミュニケーション力やプレゼンテーション力などの汎用的能力を培う科目を配置します。

電子システム工学科

電子システム工学科は、あらゆる産業分野で広く活躍できる技術者を育成し、また社会に貢献できる創造力豊かな電気電子工学分野の専門技術者の輩出を目的として、以下の方針に基づいて教育課程を編成し、実施します。電子システム工学科は、本学科の教育目標を達成するため、「手厚いサポートのある基礎教育」(安心教育)、「充実した実験、実習、演習、ワークショップ」(実力教育)、さらに「幅広い専門科目と資格関連科目」(飛躍教育)の3段階で教育課程を編成し、実施します。

(1) 実学尊重を旨とし、電気電子工学分野の現代的ニーズを意識した幅広い専門科目を用意し、本学科の教育目標を達成させるために講義、演習、実験・実習を体系的に配置します。また、成績優秀者や学習意欲の高い学生には、大学院の先取り科目を設置すると共に、各種の資格取得を目指す学生には、資格関連科目(教職課程科目を含む)を配置します。(安心・実力・飛躍教育)

(2) 専門知識と専門技能を活用して課題解決ができる能力を培うために、多数の実験・実習・ワークショップ科目を配置します。(実力教育)

(3) 理工系の基礎知識を涵養するために、数学、英語科目では習熟度別クラスで基礎学力を固めると共に、幅広い物理、化学、生物などの共通教育科目を配置します。(安心教育)

(4) キャリア科目やインターンシップを配置し、キャリア意識を培うとともに、「技術は人なり」の精神のもと、豊かな人間性、科学技術者としての倫理性を培うことを目的として人間理解、社会理解、技術者教養などの科目群のもとに人間科学科目を配置します。(安心・実力教育)

(5) グローバルな環境で意思疎通ができる能力を涵養する科目を配置すると共に、英語科目のみならず、コミュニケーション力などの汎用的能力を培う科目を配置します。(実力・飛躍教育)

応用化学科

応用化学科は、本学科の教育目標を達成するため、「手厚いサポートのある基礎教育」(安心教育)、「充実した実験、実習、演習、ワークショップ」(実力教育)、さらに「幅広い専門科目と資格関連科目」(飛躍教育)の3段階で教育課程を編成し、実施します。

(1) 実学尊重を旨とし、「有機化学」「無機・分析化学」「物理化学」「化学工学」の4分野を柱に、現代的ニーズを意識した幅広い専門科目を用意し、応用化学科の教育目標を達成させるために講義、演習、実験・実習を体系的に配置します。各種の資格取得を目指す学生には、資格関連科目(教職科目を含む)を配置します。(安心・実力・飛躍教育)

(2) 専門知識と専門技能を活用して課題解決ができる能力を培うために、多数の実験・実習・ワークショップ科目を配置します。(実力教育)

(3) 理工系の基礎知識を涵養するために、幅広く物理、化学、生物などの共通教育科目を配置します。また、数学、英語科目では習熟度別クラスで基礎学力を固めます。(安心教育)

(4) キャリア科目やインターンシップを配置し、キャリア意識を培うと共に、「技術は人なり」の精神のもと、豊かな人間性、科学技術者としての倫理性を培うことを目的として人間理解、社会理解、技術者教養などの科目群のもとに人間科学科目を配置します。(安心・実力教育)

(5) グローバルな環境で意思疎通ができる能力を涵養する科目を配置すると共に、英語科目のみならずコミュニケーション力などの汎用的能力を培う科目を配置します。(実力・飛躍教育)

機械工学科

機械工学科は、本学科の教育目標を達成するため、「手厚いサポートのある基礎教育」(安心教育)、「充実した実験、実習、演習、ワークショップ」(実力教育)、さらに「幅広い専門科目と資格関連科目」(飛躍教育)の3段階で教育課程を編成し、実施します。

(1) 実学尊重を旨とし、機械工学分野において、現代的ニーズを意識した幅広い専門科目を用意し、その教育目標を達成させるために講義、演習、実験・実習を体系的に配置します。また、成績優秀者や学習意欲の高い学生には、大学院の先取り科目を設置すると共に、各種の資格取得を目指す学生には、資格関連科目(教職課程科目を含む)を配置します。(安心・実力・飛躍教育)

(2) 専門知識と専門技能を活用して課題解決ができる能力を培うために、多数の実験・実習・ワークショップ科目を配置します。(実力教育)

(3) 理工系の基礎知識を涵養するために、幅広く物理、化学、生物などの共通教育科目を配置します。また、数学、英語科目では習熟度別クラスで基礎学力を固めます。(安心教育)

(4) キャリア科目やインターンシップを配置し、キャリア意識を培うとともに、「技術は人なり」の精神のもと、豊かな人間性、科学技術者としての倫理性を培うことを目的として人間理解、社会理解、技術者教養などの科目群のもとに人間科学科目を配置します。(安心・実力教育)

(5) グローバルな環境で意思疎通ができる能力を涵養する科目を配置すると共に、英語科目のみならずコミュニケーション力などの汎用的能力を培う科目を配置します。(実力・飛躍教育)

先端機械工学科

先端機械工学科は、本学科の教育目標を達成するため、「手厚いサポートのある基礎教育」(安心教育)、「充実した実験、実習、演習、ワークショップ」(実力教育)、さらに「幅広い専門科目と資格関連科目」(飛躍教育)の3段階で教育課程を編成し、実施します。

(1) 実学尊重を旨とし、従来からの機械工学の専門分野に加え、機械工学における先端的な周辺分野において、現代的ニーズを意識した幅広い専門科目を用意し、その教育目標を達成させるために講義、演習、実験・実習を体系的に配置します。また、成績優秀者や大学院進学を志望する学習意欲の高い学生には、大学院の先取り科目を設置すると共に、各種の資格取得を目指す学生には、資格関連科目(教職科目を含む)を配置します。(安心・実力・飛躍教育)

(2) 機械工学及びその先端的な周辺分野の実験・実習・ワークショップ科目を開設し、専門知識と専門技能を活用して課題解決ができる能力を培う科目を配置します。(実力教育)

(3) 理工系の基礎知識を涵養するために、幅広く物理、化学、生物などの共通教育科目を配置します。また、数学、英語科目では習熟度別クラスで基礎学力を固めます。(安心

教育)

(4) 機械工学及びその先端的な周辺分野と社会との関わりを理解するために、キャリア科目やインターンシップを配置し、キャリア意識を培うとともに、「技術は人なり」の精神のもと、豊かな人間性、科学技術者としての倫理性を培うことを目的として人間理解、社会理解、技術者教養などの科目群のもとに人間科学科目を配置します。(安心・実力教育)

(5) グローバルな環境で意思疎通ができる能力を涵養する科目を配置すると共に、英語科目のみならずコミュニケーション力などの汎用的能力を培う科目を配置します。(実力・飛躍教育)

情報通信工学科

情報通信工学科は、質の高い情報通信分野の専門技術者・研究者を育成することを目的として、以下の方針に基づいて教育課程を編成し、実施します。

(1) 実学尊重を旨とし、基礎学力を柱とし、情報通信工学分野の基礎を学び、さらに、情報通信システム、マルチメディア処理、コンピュータネットワーク、コンピュータ応用技術の各分野を系統的かつ専門的に学習できるように、教育課程を編成し、実施します。各種の資格取得を目指す学生には、資格関連科目(教職科目を含む)を配置します。

(2) 演習、実験、実習を重視し、すべての年次でコンピュータ関連科目及び講義科目と連携した実験科目を配し、基礎力、実践力、思考力、豊かな想像力を確実に養成しつつ、学習意欲の高い学生の実力と個性を伸ばす教育プログラムを提供します。

(3) 理工系の基礎知識をつけるために、微分積分学、線形代数学、確率統計学などの共通教育科目を配置します。

(4) キャリア科目やインターンシップを配置し、キャリア意識を培うとともに、「技術は人なり」の精神のもと、豊かな人間性、科学技術者としての倫理性を培うことを目的として人間理解、社会理解、技術者教養などの科目群のもとに人間科学科目を配置します。

(安心・実力教育)

(5) グローバルな環境で意思疎通ができる能力を涵養する科目を配置すると共に、英語科目のみならずコミュニケーション力などの汎用的能力を培う科目を配置します。(実力・飛躍教育)

人間科学科目

(1) 「技術は人なり」の精神のもと、科学技術と人間・社会との関わりを理解し、科学技術者として、また良識ある社会人として必要な教養を身につけ、豊かな人間性と倫理性を培うために、技術者教養科目群、人間・社会理解科目群、スポーツ・健康科目群を配置します。

(2) グローバルな環境で意思疎通ができる能力を涵養するためにグローバル教養科目群を、コミュニケーション力などの汎用的能力を涵養し、また科学技術者としてのキャリア意識を培うために、ジェネリックスキル・キャリア科目群を配置します。

英語科目

(1) 英語科目では、1年次・2年次の基幹科目群において、個々の学生の英語力を最大限に向上させるために、習熟度別クラスを配置します。

(2) 2年次以降の発展科目群においては、基礎学力の備わった学生を対象に、コミュニケーション能力を向上させるために、技能別の演習科目を配置します。

(3) 3年次においては、プレゼンテーションやビジネスにおけるコミュニケーションをはじめとする様々な場面での英語の運用力を身につけさせるための科目を配置します。

(4) 4年次においては、アカデミックなコミュニケーション能力を涵養するために、時事的な文章や英語の学術論文を活用して、論文の読み方や書き方の基礎を学習し、自分の意見を論理的に表現できるようにするための科目を配置します。

数学科目

(1) 数学科目では、科学技術者として必要不可欠な基礎的数学を理解させるために、「微分積分学及び演習Ⅰ」と「線形代数学Ⅰ」を配置します。

(2) 個々の学生の能力に応じて基礎的数学を無理なく理解させるために、1 年次の共通科目に於いて、習熟度別クラスを配置します。

自然科学技術科目

(1) 理工系の学生に共通の幅広い基礎知識を涵養するために、物理学・化学の講義科目を配置します。講義科目においては、学習を効果的かつ確実なものとするため、原則的に習熟度別クラスを設置します。また、基本的な実験技術及び表現力の修練のために、物理及び化学の実験を配置します。

(2) 自立的な学習姿勢と問題解決能力を涵養するために、実験科目においては、実験に関連した発展事項を調査し報告書に整理して記載するよう指導します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：東京電機大学 web サイト

<https://www.dendai.ac.jp/about/undergraduate/kougaku/policies/>)

(概要)

工学部

工学部は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに則り、安全で快適な社会の発展に貢献できる技術者を育成します。本学の教育・研究理念である「技術は人なり」に共感し、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を持った学生を求めます。

(1) 求める学生像

1. 工学部の各分野での技術に強く興味を持ち、基礎学力を身につけている学生
2. 多様な学部共通科目の履修を通して、思考力・判断力・表現力・倫理観を修得し、安全で快適な社会の発展に貢献できる技術者をを目指す学生
3. 工学部における多様な専門科目の履修を通して、主体性を持って多様な人々と協働して学び、自ら課題を発見し、解決する意欲のある学生

(2) 入学前に学習しておくことが望ましい内容

高等学校等の課程全般の基礎的な知識・技能を学習しておくこと。
特に数学、理科（物理・化学）及び英語は、十分な基礎学力を身につけておくこと。

電気電子工学科

電気電子工学科は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに則り、電力・電気機器、電子情報システム、電子デバイスの多分野にわたる教育を展開し、産業界で広く活躍でき、高い人間力を持った技術者を育成します。本学の教育・研究理念である「技術は人なり」に共感し、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を持った学生を求めます。

(1) 求める学生像

1. 電気電子工学の各分野での技術に強く興味を持ち、基礎学力を身につけている学生
2. 多様な学部共通科目の履修を通して、思考力・判断力・表現力・倫理観を修得し、安全で快適な社会の発展に貢献できる技術者をを目指す学生
3. 電気電子工学科における多様な専門科目の履修を通して、主体性を持って多様な人々と協働して学び、自ら課題を発見し、解決する意欲のある学生

(2) 入学前に学習しておくことが望ましい内容

工学部のアドミッション・ポリシーに加え、特に数学は高等学校課程の数学Ⅰ・Ⅱ・A・B・Cまでを十分理解し、数学Ⅲの範囲も学習しておくことが望ましい。また、理科は、基礎を付さない「物理」または「化学」を学習しておくことが望ましい。

電子システム工学科

電子システム工学科は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに則り、知識・技術だけではなく、それらを活用して新しいものを生み出す創造性を持った技術者を育成します。本学の教育・研究理念である「技術は人なり」に共感し、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を持った学生を求めます。

(1) 求める学生像

1. 電子システム工学の各分野での技術に強く興味を持ち、基礎学力を身につけている学生
2. 多様な学部共通科目の履修を通して、思考力・判断力・表現力・倫理観を修得し、安全で快適な社会の発展に貢献できる技術者をを目指す学生
3. 電子システム工学科における多様な専門科目の履修を通して、主体性を持って多様な人々と協働して学び、自ら課題を発見し、解決する意欲のある学生

(2) 入学前に学習しておくことが望ましい内容

工学部のアドミッション・ポリシーに加え、特に数学は高等学校課程の数学Ⅰ・Ⅱ・A・B・Cまでを十分理解し、数学Ⅲの範囲も学習しておくことが望ましい。また、理科は、基礎を付さない「物理」または「化学」を学習しておくことが望ましい。

応用化学科

応用化学科は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに則り、応用化学分野に関する知識と技術で持続可能な社会の構築に貢献することを志望する人材を育成します。本学の教育・研究理念である「技術は人なり」に共感し、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を持った学生を求めます。

(1) 求める学生像

1. 応用化学の各分野での技術に強く興味を持ち、基礎学力を身につけている学生
2. 多様な学部共通科目の履修を通して、思考力・判断力・表現力・倫理観を修得し、安全で快適な社会の発展に貢献できる技術者をを目指す学生
3. 応用化学科における多様な専門科目の履修を通して、主体性を持って多様な人々と協働して学び、自ら課題を発見し、解決する意欲のある学生

(2) 入学前に学習しておくことが望ましい内容

工学部のアドミッション・ポリシーに加え、特に化学は高等学校課程の基礎を付さない「化学」を、数学は高等学校課程の数学Ⅰ・Ⅱ・A・B・Cまでを十分理解していること。加えて、数学Ⅲ、及び基礎を付さない「物理」の範囲も学習しておくことが望ましい。

機械工学科

機械工学科は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに則り、安全で快適な社会の発展に貢献できる機械技術者を育成します。本学の教育・研究理念である「技術は人なり」に共感し、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を持った学生を求めます。

(1) 求める学生像

1. 機械工学の各分野での技術に強く興味を持ち、基礎学力を身につけている学生
2. 多様な学部共通科目の履修を通して、思考力・判断力・表現力・倫理観を修得し、安全で快適な社会の発展に貢献できる技術者をを目指す学生
3. 機械工学科における多様な専門科目の履修を通して、主体性を持って多様な人々と協働して学び、自ら課題を発見し、解決する意欲のある学生

(2) 入学前に学習しておくことが望ましい内容

工学部のアドミッション・ポリシーに加え、特に数学は高等学校課程の数学Ⅰ・Ⅱ・A・B・Cまでを十分理解し、数学Ⅲの範囲も学習しておくことが望ましい。また、理科は、基礎を付さない「物理」または「化学」を学習しておくことが望ましい。

先端機械工学科

先端機械工学科は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに則り、安全で快適な社会の発展に貢献できる技術者を育成します。本学の教育・研究理念である「技術は人なり」に共感し、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を持った学生を求めます。

(1) 求める学生像

1. 先端機械工学の各分野での技術に強く興味を持ち、基礎学力を身につけている学生
2. 多様な学部共通科目の履修を通して、思考力・判断力・表現力・倫理観を修得し、安全で快適な社会の発展に貢献できる技術者をを目指す学生
3. 先端機械工学科における多様な専門科目の履修を通して、主体性を持って多様な人々と協働して学び、自ら課題を発見し、解決する意欲のある学生

(2) 入学前に学習しておくことが望ましい内容

工学部のアドミッション・ポリシーに加え、特に数学は高等学校課程の数学Ⅰ・Ⅱ・A・B・Cまでを十分理解し、数学Ⅲの範囲も学習しておくことが望ましい。また、理科は、基礎を付さない「物理」または「化学」を学習しておくことが望ましい。

情報通信工学科

情報通信工学科は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに則り、コンピュータを中心とする情報系技術と、ネットワークや光ファイバをはじめとする通信系技術の両分野を修得できるようにしつつ、応用力と洞察力を備え、技術者として自立できる社会性をもった人材を育成します。本学の教育・研究理念である「技術は人なり」に共感し、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を持った学生を求めます。

(1) 求める学生像

1. 情報通信工学の各分野での技術に強く興味を持ち、基礎学力を身につけている学生
2. 多様な学部共通科目の履修を通して、思考力・判断力・表現力・倫理観を修得し、安全で快適な社会の発展に貢献できる技術者をを目指す学生
3. 情報通信工学科における多様な専門科目の履修を通して、主体性を持って多様な人々と協働して学び、自ら課題を発見し、解決する意欲のある学生

(2) 入学前に学習しておくことが望ましい内容

工学部のアドミッション・ポリシーに加え、特に数学は高等学校課程の数学Ⅰ・Ⅱ・A・B・Cまでを十分理解し、数学Ⅲの範囲も学習しておくことが望ましい。また、理科は、基礎を付さない「物理」または「化学」を学習しておくことが望ましい。

入学者選抜における取組

(1) 記述式問題

本学一般選抜及び学校推薦型選抜の一部の選抜において、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」を評価するため、自らの考えを立論し、それを表現するなどの記述式問題を含む試験問題を出題しています。

(2) 英語資格・英語検定試験の活用

本学の「一般選抜（前期・英語外部試験利用）」及び「一般選抜（後期・英語外部試験利用）」では、本学が指定した英語資格・英語検定試験のスコアまたは基準値（※CEFR「A2」以上）を「出願資格」として利用し、英語の試験を免除しています。

（３）経済的な配慮・支援

「一般選抜（前期）」において、成績優秀（＊３教科合計得点 225 点以上/300 点満点）で社会に貢献できる技術者を目指す新入生に対して、経済的負担を軽減する目的として年間 35 万円を給付し、学業成績要件を満たせば最長 4 年間給付しています。

学部等名 工学部第二部
教育研究上の目的（公表方法：学生要覧、東京電機大学 web サイト https://www.dendai.ac.jp/about/campuslife/youran/tokyo_senju.html ）
（概要） 一般学生 本学部は、科学技術分野における「知」の継承と現代社会に必要とされる「技術」を展開することにより、現代社会が直面する問題を解決し、さらに進んで社会の発展に寄与することのできる確かな能力を培うこととしています。 すなわち、現代社会において必要とされる科学技術とその進展に貢献するための実践的技術者を養成します。 併せて、夜間学部として、社会人教育を推進します。 社会人課程（実践知重点課程） 本学部社会人課程では、科学技術分野における「知」の継承と現代社会に必要とされる「技術」を展開することにより、現代社会が直面する問題を解決し、さらに進んで社会の発展に寄与することのできる確かな能力を培うこととしています。 更に、夜間学部として、実社会において必要とされる科学技術とその進展に貢献するための工学実践的を深めた実務的技術者を養成します。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：東京電機大学 web サイト https://www.dendai.ac.jp/about/undergraduate/kougaku2/policies/ ）
（概要） 工学部第二部 一般学生 工学部第二部は、本学部に所定の期間在学（※）し、工学部第二部の教育目標を達成するために開設した各学科の授業科目を履修して所定の単位を修得し、以下の知識・能力・姿勢を身につけた学生に対して卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与します。 （１）実学尊重を旨として、科学技術の中核をなす工学の、電気電子工学、機械工学、情報通信工学の３分野のうち、１つの専門分野の実践的な知識と技術を持つこと。（DP1） （２）安全で快適な社会の発展に貢献できる上記の工学的３分野のうち、自らの専門的知識と専門的技術を活用し、さまざまな現実的な課題に挑戦し、解決する実践力を持つこと。（DP2） （３）理工系の基礎知識を着実に身につけると共に、常に新しい知識と技術の獲得に努める積極的な姿勢を持つこと。（DP3） （４）「技術は人なり」の精神のもと、科学技術と人間・社会との関わりを理解し、実践的技術者として、また良識ある社会人として必要な教養、キャリア意識、倫理観を身につけていること。（DP4） （５）グローバルな視野を持ち、将来、実践的技術者として活躍できるコミュニケーション力やプレゼンテーション力などの汎用的能力を身につけていること。（DP5） ※標準修業年限４年。 社会人課程（実践知重点課程） 工学部第二部社会人課程は、本学部に所定の期間在学（※）し、工学部第二部の教育目標を達成するために開設した各学科及び実践知重点科目の授業科目を履修して所定の単位を修得し、以下の知識・能力・姿勢を身につけた学生に対して卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与します。 （１）実学尊重を旨として、科学技術の中核をなす工学の、電気電子工学、機械工学、情報通信工学の３分野のうち、１つの専門分野の実践的な知識と技術を持つこと。（DP1） （２）安全で快適な社会の発展に貢献できる上記の工学的３分野のうち、自らの専門的知

識と専門的技術、及び工学全般の実践知を活用し、職務上の様々な課題を解決する実践力を持つこと。(DP2)

(3) 理工系の一定の知識を身につけると共に、常に新しい実践的な知識と技術の獲得に努める積極的な姿勢を持つこと。(DP3)

(4) 「技術は人なり」の精神のもと、科学技術と人間・社会との関わりを理解し、実践的技術者として、また良識ある社会人として必要な教養、キャリア意識、倫理観を身につけていること。(DP4)

(5) グローバルな視野を持ち、実践的技術者として活躍できるコミュニケーション力やプレゼンテーション力などの汎用的能力を身につけていること。(DP5)

※標準修業年限 4 年

電気電子工学科

工学部第二部電気電子工学科は、本学科の学位授与方針をもとに、本学科に所定の期間在学し(※)、次の学修成果を上げた者に対して卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与します。

(1) 実学尊重を旨として、電気電子工学の、電力・電気機器分野、電子システム分野、電子デバイス分野などの専門分野の科学技術の知識と技術を持つこと。(DP1)

(2) 電気電子工学分野の専門知識と技術を活用し、さまざまな課題に挑戦し、解決する実践力と、深い考察力を持つこと。(DP2)

(3) 理工系の幅広い基礎知識を持つと共に、常に新しい科学技術の知識と技術の獲得に努める積極的な姿勢を持つこと。(DP3)

(4) 「技術は人なり」の精神のもと、科学技術と人間・社会との関わりを理解し、科学技術者として必要な教養、キャリア意識、倫理観を身につけていること。(DP4)

(5) グローバルな視野を持ち、将来、科学技術者として世界で活躍できるコミュニケーション力やプレゼンテーション力などの汎用的能力を身につけていること。(DP5)

※標準修業年限 4 年

機械工学科

本学科に所定の期間在学し(※)、本学科の教育目標を達成するために開設した授業科目を履修して所定の単位を修得し、以下の知識、能力、姿勢を身につけた学生に対して卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与します。

(1) 実学尊重を旨として、科学技術の中核をなす工学分野の 1 つである機械工学の科学技術の知識と技術を持つこと。(DP1)

(2) 安心・安全で快適な社会の発展に貢献できる機械工学の専門的知識と専門的技術を活用し、さまざまな課題に挑戦し、解決する実践力を持つこと。(DP2)

(3) 理工系の幅広い基礎知識を持つと共に、常に新しい知識と技術の獲得に努める積極的な姿勢を持つこと。(DP3)

(4) 「技術は人なり」の精神のもと、科学技術と人間・社会との関わりを理解し、科学技術者として、また良識ある社会人として必要な教養、キャリア意識、倫理観を持つこと。(DP4)

(5) グローバルな視野を持ち、将来、科学技術者として必要なコミュニケーション力などの汎用的能力を身につけること。(DP5)

※標準修業年限 4 年

情報通信工学科

工学部第二部の情報通信工学科は、本学科の学位授与方針をもとに、本学科に所定の期

間在学し（※）、以下のすべてを満たした者に対して、学士（工学）の学位を授与します。

- （１）実学尊重を旨として、情報通信工学における「情報・コンピュータ技術」と「通信・メディア処理技術」の両分野に関する知識と技術が身につけていること。（DP1）
- （２）自発性、問題解決能力や実践力、新技術に柔軟に対応し受容するための実践的な適応能力、かつ深い考察力を兼ね備えていること。（DP2）
- （３）工学全般に関する広い知識と理解力を兼ね備えていること。（DP3）
- （４）「技術は人なり」の精神のもと、一般教養、マネジメント力、キャリア意識、倫理観を身につけ、情報通信分野の専門技術者・研究者として自立できる能力を築いていること。（DP4）
- （５）語学、コミュニケーション力、プレゼンテーション力などを身につけていること。（DP5）

※標準修業年限は４年

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：東京電機大学 web サイト
<https://www.dendai.ac.jp/about/undergraduate/kougaku2/policies/>）

（概要）

工学部第二部

一般学生

工学部第二部は、本学部の教育目標を達成するため、以下のように教育課程を編成し、実施します。

- （１）実学尊重を旨とし、工学の３つの専門分野において、現実的ニーズを意識した専門科目を用意し、学科ごとにその教育目標を達成させるために講義、演習、実験・実習を体系的に配置します。また、大学院進学を志望する学習意欲の高い者には、大学院の先取り科目を設置すると共に、各種の資格取得を目指す者は、資格関連科目（教職課程科目含む）を配置します。
- （２）多数の実験・実習科目を開設し、専門知識と専門技能を活用して課題解決ができる能力を涵養します。
- （３）理工系の基礎知識を涵養するために、物理、化学などの工学の基礎となる科目を配置します。また、多様な背景を持つ学生に対応して、数学、英語科目では習熟度別クラスで基礎学力を固めます。
- （４）「技術は人なり」の精神のもと、豊かな人間性、実践的な技術者としての倫理性を培うことを目的として様々な人間科学科目を配置します。
- （５）グローバルな環境で意思疎通ができる能力を涵養するため、英語科目のみならず専門科目においても、コミュニケーション力やプレゼンテーション力などの汎用的能力を培う科目を配置します。

社会人課程（実践知重点課程）

工学部第二部社会人課程では、本学部課程の教育目標を達成するため、以下のように教育課程を編成し、実施します。

- （１）実学尊重を旨とし、工学の３つの専門分野において、現実的ニーズを意識した専門科目、及び実践知重点科目を用意し、学科ごとにその教育目標を達成させるために講義、演習、実験・実習を体系的に配置します。また、大学院進学を志望する学習意欲の高い者には、大学院の先取り科目を設置すると共に、各種の資格取得を目指す者には、資格関連科目（教職課程科目含む）を配置します。
- （２）多数の実験・実習科目を開設し、専門知識と専門技能を活用して課題解決ができる能力を涵養します。
- （３）理工系の基礎知識を涵養するために、物理、化学などの工学の基礎となる科目を配

置します。また、多様な背景を持つ社会人学生に対応して、数学、英語科目では習熟度別クラスで基礎学力を固めます。

(4) 「技術は人なり」の精神のもと、豊かな人間性、実践的な技術者としての倫理性を培うことを目的として様々な人間科学科目を配置します。

(5) グローバルな環境で意思疎通ができる能力を涵養するため、英語科目のみならず専門科目においても、コミュニケーション力やプレゼンテーション力などの汎用的能力を培う科目を配置します。

電気電子工学科

工学部第二部電気電子工学科は、本学科の教育目標を達成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成し、実施します。

(1) 実学尊重を旨とし、電気電子工学分野の基礎理論・知識を確実に修得するため、電気回路系科目、電磁気学系科目、数学系科目の一部を必修科目として低学年に配置すると共に、基礎科目として修得するのが望ましい科目を選択科目として配置します。また、重要な基礎科目については、講義に加え演習も行います。さらに、基礎応用科目として、電力・電気機器分野、電子システム分野、電子デバイス分野などの専門科目を、高学年の選択科目として配置します。また、電気主任技術者をはじめとする電気電子工学分野の重要な資格取得のための科目に加え、工業及び情報の教職科目を配置します。

(2) 多数の実験・実習科目を開設し、専門知識と専門技能を活用して課題解決ができる能力を涵養します。

(3) 理工系の基礎知識を涵養するために、数学、物理、化学などの共通教育科目を配置します。さらに、コンピュータ・情報システムの基礎と応用を学ぶための科目を配置します。なお、多様な背景を持つ学生に対して、数学科目では習熟度別クラスで基礎学力を固めます。

(4) 「技術は人なり」の精神のもと、技術者として将来活躍するための基盤として、豊かな人間性や科学技術者としての倫理観を培うことを目的とした科目群を人間科学科目として配置します。

(5) グローバルな環境で意思疎通ができる能力を涵養するために、英語科目に加え、専門科目においても、コミュニケーション力やプレゼンテーション力などの汎用的能力を養う科目を配置します。なお、多様な背景を持つ学生に対して、英語科目では習熟度別クラスで基礎学力を固めます。

機械工学科

工学部第二部機械工学科は、本学科の教育目標を達成するため、「手厚いサポートのある基礎教育」（安心教育）、「充実した実験、実習、演習」（実力教育）、さらに「幅広い専門科目と資格関連科目」（飛躍教育）の3段階で教育課程を編成し、実施します。

(1) 実学尊重を旨とし、機械工学分野において、現代的ニーズを意識した幅広い専門科目を用意し、その教育目標を達成させるために講義、演習、実験・実習を体系的に配置します。また、成績優秀者や学習意欲の高い学生には、大学院の先取り科目を設置すると共に、各種の資格取得を目指す学生には、資格関連科目（教職課程科目を含む）を配置します。（安心・実力・飛躍教育）

(2) 専門知識と専門技能を活用して課題解決ができる能力を培うために、多数の実験・実習科目を配置します。（実力教育）

(3) 理工系の基礎知識を涵養するために、幅広く物理、化学、生物などの共通教育科目を配置します。また、数学、英語科目では習熟度別クラスで基礎学力を固めます。（安心教育）

(4) キャリア科目を配置し、キャリア意識を培うとともに、「技術は人なり」の精神のもと、豊かな人間性、科学技術者としての倫理性を培うことを目的として人間理解、社会理解、技術者教養などの科目群のもとに人間科学科目を配置します。（安心・実力教育）

(5) グローバルな環境で意思疎通ができる能力を涵養する科目を配置すると共に、英語科目のみならずコミュニケーション力などの汎用的能力を培う科目を配置します。(実力・飛躍教育)

情報通信工学科

工学部第二部情報通信工学科は、質の高い情報通信分野の専門技術者・研究者を育成することを目的として、以下の方針に基づいて教育課程を編成し、実施します。

(1) 実学尊重を旨とし、基礎学力を柱とし、情報通信工学分野の基礎を学び、さらに、情報通信システム、マルチメディア処理、コンピュータネットワーク、コンピュータ応用技術の各分野を系統的かつ専門的に学習できるように、教育課程を編成、実施し、さらに資格関連科目(教職関連科目を含む)を配置します。

(2) 演習、実験、実習を重視し、すべての年次でコンピュータ関連科目及び講義科目と連携した実験科目を配し、基礎力、実践力、思考力、豊かな想像力を確実に養成しつつ、学習意欲の高い学生の実力と個性を伸ばす教育プログラムを提供します。

(3) 理工系の基礎知識をつけるために、微分積分学、線形代数学、確率統計学などの共通教育科目を配置します。

(4) 「技術は人なり」の精神のもと、情報通信分野におけるキャリア意識、科学技術者としての倫理性及び豊かな人間性を涵養するための科目を配置します。

(5) グローバルな環境で意思疎通ができる能力をつけるために、コミュニケーション力やプレゼンテーション力などの汎用的能力を培う科目を配置します。

人間科学科目

(1) 科学技術と人間・社会との関わりを理解し、科学技術者として、また良識ある社会人として必要な教養を身につけ、「技術は人なり」の精神のもと、豊かな人間性と倫理性を培うために、技術者教養科目群、人間理解科目群、社会理解科目群、スポーツ・健康科目群を配置します。

(2) グローバルな環境で意思疎通ができる能力を涵養するためにグローバル教養科目群を配置します。

英語科目

(1) 英語科目では、1年次・2年次の基幹科目群において、個々の学生の英語力を最大限に向上させるために、習熟度別クラスを配置します。

(2) 2年次以降の発展科目群においては、基礎学力の備わった学生を対象に、コミュニケーション能力を向上させるために、技能別の演習科目を配置します。

(3) 3年次においては、プレゼンテーションやビジネスにおけるコミュニケーションをはじめとする様々な場面での英語の運用力を身につけさせるための科目を配置します。

(4) 4年次においては、アカデミックなコミュニケーション能力を涵養するために、時事的な文章や英語の学術論文を活用して、論文の読み方や書き方の基礎を学習し、自分の意見を論理的に表現できるようにするための科目を配置します。

数学科目

数学科目では、科学技術者として必要不可欠な基礎的数学を理解させるために、「微分積分学及び演習 I」と「線形代数学 I」を配置します。

物理学科目

物理学科目は、理工系専門科目の理解に必要不可欠な質点の力学を柱とする、質点系及び剛体の力学、振動・波動、電磁気学、熱力学などの基礎物理学を体系的に学べるように、教育課程を編成し、実施します。

化学科目

化学科目は、理工系専門科目を理解する上で基盤となる化学の原理や基礎を柱とし、化学的な知識や見方を学びながら、科学技術者として求められる問題解決力、課題探求力、表現力などを涵養するよう、教育課程を編成し、実施します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：東京電機大学 web サイト
<https://www.dendai.ac.jp/about/undergraduate/kougaku2/policies/>）

（概要）

工学部第二部

工学部第二部は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに則り、実社会で真に必要とされる能力を備えた技術者を育成します。本学の教育・研究理念である「技術は人なり」に共感し、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を持った学生を求めます。

（１）求める学生像

1. 工学部第二部の各分野での技術に強く興味を持ち、基礎学力を身につけている学生
2. 多様な学部共通科目の履修を通して、思考力・判断力・表現力・倫理観を修得し、安全で快適な社会の発展に貢献できる技術者をを目指す学生
3. 工学部第二部における多様な専門科目の履修を通して、主体性を持って多様な人々と協働して学び、自ら課題を発見し、解決する意欲のある学生

（２）入学前に学習しておくことが望ましい内容

高等学校等の課程全般の基礎的な知識・技能を学習しておくこと。
特に数学、物理及び英語は、十分な基礎学力を身につけておくこと。

電気電子工学科

工学部第二部電気電子工学科は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに則り、電力・電気機器、電子システム、電子デバイスの多分野にわたる教育を展開し、産業界で広く活躍でき、高い人間力を持った技術者を育成します。本学の教育・研究理念である「技術は人なり」に共感し、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を持った学生を求めます。

（１）求める学生像

1. 電気電子工学の各分野での技術に強く興味を持ち、基礎学力を身につけている学生
2. 多様な学部共通科目の履修を通して、思考力・判断力・表現力・倫理観を修得し、安全で快適な社会の発展に貢献できる技術者をを目指す学生
3. 工学部第二部電気電子工学科における多様な専門科目の履修を通して、主体性を持って多様な人々と協働して学び、自ら課題を発見し、解決する意欲のある学生

（２）入学前に学習しておくことが望ましい内容

工学部第二部のアドミッション・ポリシーに加え、特に数学は高等学校課程の数学Ⅰ・Ⅱまでを十分理解し、数学Ⅲ・Ａ・Ｂ・Ｃの範囲も学習しておくことが望ましい。また、理科は、基礎を付さない「物理」を学習しておくことが望ましい。

機械工学科

工学部第二部機械工学科は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに則り、実社会で真に必要とされる能力を備えた機械技術者を育成します。本学の教育・研究理念である「技術は人なり」に共感し、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を持った学生を求めます。

（１）求める学生像

1. 機械工学の各分野での技術に強く興味を持ち、基礎学力を身につけている学生
2. 多様な学部共通科目の履修を通して、思考力・判断力・表現力・倫理観を修得し、安

全で快適な社会の発展に貢献できる技術者をを目指す学生

3. 工学部第二部機械工学科における多様な専門科目の履修を通して、主体性を持って多様な人々と協働して学び、自ら課題を発見し、解決する意欲のある学生

(2) 入学前に学習しておくことが望ましい内容

工学部第二部のアドミッション・ポリシーに加え、特に数学は高等学校課程の数学Ⅰ・Ⅱまでを十分理解し、数学Ⅲ・A・B・Cの範囲も学習しておくことが望ましい。また、理科は、基礎を付さない「物理」を学習しておくことが望ましい。

情報通信工学科

工学部第二部情報通信工学科は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに則り、現代社会において必要とされる情報通信技術とその進展に貢献できる実践的技術者を育成します。本学の教育・研究理念である「技術は人なり」に共感し、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を持った学生を求めます。

(1) 求める学生像

1. 情報通信工学の各分野での技術に強く興味を持ち、基礎学力を身につけている学生
2. 多様な学部共通科目の履修を通して、思考力・判断力・表現力・倫理観を修得し、全で快適な社会の発展に貢献できる技術者をを目指す学生
3. 工学部第二部情報通信工学科における多様な専門科目の履修を通して、主体性を持って多様な人々と協働して学び、自ら課題を発見し、解決する意欲のある学生

(2) 入学前に学習しておくことが望ましい内容

工学部第二部のアドミッション・ポリシーに加え、特に数学は高等学校課程の数学Ⅰ・Ⅱまでを十分理解し、数学Ⅲ・A・B・Cの範囲も学習しておくことが望ましい。また、理科は、基礎を付さない「物理」を学習しておくことが望ましい。

入学者選抜における取組

(1) 記述式問題

本学一般選抜及び学校推薦型選抜の一部の選抜において、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」を評価するため、自らの考えを立論し、それを表現するなどの記述式問題を含む試験問題を出題しています。

(2) 経済的な配慮・支援

経済的な事情等で大学進学に不安を抱えているものの、学ぶ意欲と働く意欲がある人を対象に、昼間は本学東京千住キャンパスの「学生職員」として働きながら、夜間は工学部第二部で学修することができる「総合型選抜（はたらく学生）」を実施しています。（＊入学検定料は無料）

学部等名 理工学部
教育研究上の目的（公表方法：学生要覧、東京電機大学 web サイト https://www.dendai.ac.jp/about/campuslife/youran/saitama_hatoyama.html ）
（概要） 基礎分野としての理学と応用分野としての工学・情報学を基盤として学系及びコースを構成し、それらよりなる複合分野の教育研究を推進することを目的とします。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：東京電機大学 web サイト https://www.dendai.ac.jp/about/undergraduate/rikougaku/policies/ ）
（概要） 理工学部 理工学部に所定の期間在学し（※）、卒業に必要な単位を修得して、次の学修成果を上げた者に対して、学士の学位を授与します。 （１）実学尊重を旨として、理学、生命科学、情報学、機械工学、電子工学、建築・都市環境学の理工学 6 分野のうち、主となる専門分野（主コース）と副となる専門分野（副コース）の科学技術の知識・技術をもつこと。 （２）自立した発想のもとに解くべき課題を見つけ出す能力をもつとともに、専門的知識と技術を活用してその課題を解決するための実践力、コミュニケーション能力をもつこと。 （３）科学技術社会の永続的発展に寄与することができる理工学の幅広い基礎知識をもつこと。 （４）「技術は人なり」の精神のもと、倫理観のある科学技術者及び人間性豊かな社会人として必要な素養を身につけること。 （５）グローバルな環境でコミュニケーションをとることができる基本的な語学力と広い教養を身につけること。 ※標準修業年限 4 年 理学系 理工学部の理学系は、本学部の学位授与方針をもとに、本学系に所定の期間在学し（※）、以下の能力を身につけた者に対して、学士（理学）の学位を授与します。 （１）実学尊重を旨として、理学分野における専門的知識や技術を身につけること。（DP1） （２）自立した発想のもとに理学分野の解くべき課題を見つけ出す能力をもつとともに、専門的知識と技術を活用してその課題を解決するための実践力、コミュニケーション能力を有し、解決に向けた取り組みの内容と結果を口頭及び論文により表現できること。（DP2） （３）科学技術社会の永続的発展に寄与することができる理工学の基礎知識を幅広くもつこと。（DP3） （４）「技術は人なり」の精神のもと、倫理観のある科学技術者及び人間性豊かな社会人として必要な素養を身につけること。（DP4） （５）グローバルな環境でコミュニケーションをとることができる基本的な語学力と広い教養を身につけること。（DP5） ※標準修業年限 4 年 生命科学系 理工学部の生命科学系は、本学部の学位授与方針をもとに、本学系に所定の期間在学し（※）、以下の能力を身につけた者に対して、学士（工学）の学位を授与します。 （１）実学尊重を旨として、生命科学分野で必要とされる知識や技術を身につけること。（DP1） （２）自立した発想のもとに生命科学分野の解くべき課題を見つけ出す能力をもつとも

に、専門的知識と技術を活用してその課題を解決するための実践力、コミュニケーション能力をもつこと。課題解決の過程や結果を適切に表現し、議論する能力を身につけること。（DP2）

（3）理工学全般に共通する基礎知識や考え方を身につけること。（DP3）

（4）「技術は人なり」の精神のもと、倫理観のある科学技術者及び人間性豊かな社会人として必要な素養を身につけること。（DP4）

（5）グローバルな環境でコミュニケーションをとることができる基本的な語学力と広い教養を身につけること。（DP5）

※標準修業年限 4 年

情報システムデザイン学系

理工学部の情報システムデザイン学系は、学部の学位授与方針をもとに、本学系に所定の期間在学し（※）、以下の能力を身につけた者に対して、学士（情報学）の学位を授与します。

（1）実学尊重を旨として、情報学の分野における専門的知識や技術を身につけること。（DP1）

（2）自立した発想のもとに情報学分野の解くべき課題を見つけ出す能力をもつとともに、専門的知識と技術を活用してその課題を解決するための実践力、コミュニケーション能力を有し、解決に向けた取り組みの内容と結果を口頭及び論文により表現できること。（DP2）

（3）科学技術社会の永続的発展に寄与することができる理工学の幅広い基礎知識をもつこと。（DP3）

（4）「技術は人なり」の精神のもと、倫理観のある科学技術者及び人間性豊かな社会人として必要な素養を身につけること。（DP4）

（5）グローバルな環境でコミュニケーションをとることができる基本的な語学力と広い教養を身につけること。（DP5）

※標準修業年限 4 年

機械工学系

理工学部の機械工学系は、本学部の学位授与方針をもとに、本学系に所定の期間在学し（※）、以下の能力を身につけた者に対して、学士（工学）の学位を授与します。

（1）実学尊重を旨として、機械工学分野の技術者に必要とされる専門的な知識や技術を身につけること。（DP1）

（2）自立した発想のもとに機械工学分野の解くべき課題を見つけ出す能力をもつとともに、専門的な知識と技術を習得した上で、その課題を解決するための実践力、コミュニケーション能力をもつこと。（DP2）

（3）科学技術社会の永続的発展に寄与することができる理工学の幅広い基礎知識をもつこと。（DP3）

（4）「技術は人なり」の精神のもと、倫理観のある科学技術者及び人間性豊かな社会人として必要な素養を身につけること。（DP4）

（5）グローバルな環境でコミュニケーションをとることができる基本的な語学力と広い教養を身につけること。（DP5）

※標準修業年限 4 年

電子情報・生体医工学系

理工学部の電子情報・生体医工学系は、本学部の学位授与方針をもとに、本学系に所定の期間在学し（※）、以下の能力を身につけた者に対して、学士（工学）の学位を授与し

ます。

(1) 実学尊重を旨として、電気電子工学分野の技術者に必要とされる専門的な知識や技術を身につけること。(DP1)

(2) 自立した発想のもとに電気電子工学分野の解くべき課題を見つけ出す能力をもつとともに、専門的知識と技術を活用してその課題を解決するための実践力、コミュニケーション能力をもつこと。課題解決の過程や結果を適切に表現する能力を身につけること。(DP2)

(3) 科学技術社会の永続的発展に寄与することができる理工学の幅広い基礎知識をもつこと。(DP3)

(4) 「技術は人なり」の精神のもと、倫理観のある科学技術者及び人間性豊かな社会人として必要な素養を身につけること。(DP4)

(5) グローバルな環境でコミュニケーションをとることができる基本的な語学力と広い教養を身につけること。(DP5)

※標準修業年限 4 年

建築・都市環境学系

建築・都市環境学系は、本学部の学位授与方針のもとに、本学系に所定の期間在学し(※)、以下の能力を身につけた者に対して、学士(工学)の学位を授与します。

(1) 実学尊重を旨として、建築・都市環境学の分野において必要な専門的知識や技術、並びに計画的に仕事を進め遂行することができる建設技術者としての能力を身につけること。(DP1)

(2) 豊かな創造力や柔軟な思考力を有し、社会が直面している諸問題を認識して、その問題を解決することができる建設技術者としての実践力、コミュニケーション能力を身につけること。(DP2)

(3) 人間と自然とが共生できる持続可能な社会の構築に寄与することができる理工学全般に共通する基礎知識や考え方を身につけること。(DP3)

(4) 「技術は人なり」の精神のもと、良識ある人間性、倫理性、福祉への眼差し等の資質・感性を有し、生涯に渡り研鑽を積むことのできる心身健全な建設技術者としての素養を身につけること。(DP4)

(5) 異文化理解の資質・感性を有し、意見や情報を当事者間で適切に授受することができ、国際的に活躍できる建設技術者としての能力を身につけること。(DP5)

※標準修業年限 4 年

教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法:東京電機大学 web サイト
<https://www.dendai.ac.jp/about/undergraduate/rikougaku/policies/>)

(概要)

理工学部

理工学部は、「未来型科学技術者」を養成するために、1 年次に専門基礎科目及び学系共通科目を履修させたのち、2 年次になるときに主コース及び副コースを各々1 つずつ選択させます。自主的な学びのために副コースは他学系からも選択できるようにします。

また、理工学部の「学位授与の方針」を実現するために、以下のように教育課程を編成し、実施します。

(1) 実学尊重を旨とし、理工学部の 6 つの専門分野(学系)それぞれに複数のコースを設置し、学系における広い範囲をカバーする専門科目とコース特有の専門科目とを用意します。これらの専門科目を講義、演習、実験・実習によって構成し、体系的に配置します。また、各種の資格取得を目指す学生には、資格関連科目(教職科目を含む)を配置します。

(2) 自立した発想のもとに解くべき課題を見つけ出す能力、課題解決能力、コミュニケーション能力を涵養するために、課題解決型学習を取り入れた演習、実験・実習科目及びアクティブラーニングの手法を取り入れた科目を配置します。

(3) 理工系の基礎知識を涵養するために、数学系科目、物理学や化学などの実験・実習を含む自然科学系科目、情報処理系科目等を主に1年次に配置します。基礎学力を固めるために、履修科目指導や習熟度別クラスを導入します。

(4) 科学技術者としての倫理性を養う科目を配置します。「技術は人なり」の精神のもと、豊かな人間性や社会性を育むために人文系科目を配置します。キャリア意識を培うためにインターンシップを含む科目を配置します。

(5) 国際的なコミュニケーション力を身につけるために、英語科目に加え、国際社会について学ぶ人文系科目を配置します。

理学系

理工学部で理学系は、4つの専門コースを設け、数学、物理学、化学、数理情報学などの専門知識と理工学の基礎を身につけること及び人間性・社会性・国際性を育むことを目的として、以下の方針に基づいて教育課程を編成し、実施します。教育課程の実施に際して、主コースを理学系から1つ、副コースを理学系または他学系から1つ、それぞれ選択させて履修指導を行います。

(1) (DP1 に対応) 実学尊重を旨とし、理学系における広い範囲をカバーする専門科目とコース特有の専門科目とを用意し、体系的に配置します。また、各種の資格取得を目指す学生には、資格関連科目(教職科目を含む)を配置します。

(2) (DP2 に対応) 課題・問題解決能力の育成を目的とした演習、実験、輪講科目を学年進行に従い体系的に配置し、卒業研究論文の執筆と口頭発表に至るまでの一貫した指導を行います。

(3) (DP3 に対応) 理工系の基礎知識を涵養するために、数学系科目、物理学や化学などの実験・実習を含む自然科学系科目、情報処理系科目等を主に1年次に配置します。基礎学力を固めるために、履修科目指導や習熟度別クラスを導入します。

(4) (DP4 に対応) 科学技術者としての倫理性を養う科目を配置します。「技術は人なり」の精神のもと、豊かな人間性や社会性を育むために人文系科目を配置します。キャリア意識を培うためにインターンシップを含む科目を配置します。

(5) (DP5 に対応) 国際的なコミュニケーション力を身につけるために、英語科目に加え、国際社会について学ぶ人文系科目を配置します。

コース名 : 数学

理学系における教育課程編成の方針を踏まえ、数学コースは、以下に特に配慮して教育課程を編成し、実施します。

① (DP1 に対応) 代数学、解析学、幾何学に関する科目を体系的に配置します。

② (DP2 に対応) 問題解決能力を涵養し、より具体的な計算力を身につけるための科目や少人数制の科目を配置します。

コース名 : 物理学

理学系における教育課程編成の方針を踏まえ、物理学コースは以下に特に配慮して、教育課程を編成し、実施します。

① (DP1 に対応) 力学、電磁気学、量子力学、熱・統計力学、物性物理学を主とし、それぞれの分野の科目を体系的に配置します。さらに、実験、演習及びプログラミングに関する科目を配置します。

② (DP2 に対応) 物理学に関する課題探求・解決能力を涵養する科目を、各学年に配置します。

コース名 : 化学

理学系における教育課程編成の方針を踏まえ、化学コースは以下に特に配慮して、教育課程を編成し、実施します。

① (DP1 に対応) 化学を原理から理解するために、分析化学、有機化学、無機化学、物理化学に関する分野の科目を体系的に配置します。

② (DP2 に対応) 問題解決能力を涵養し、より高度な専門知識を獲得できるよう、課題探究型の科目と輪講科目を配置します。さらに、講義で学習したことを深く理解し、実験技術を確かなものとするため、実験科目を体系的に配置します。

コース名 : 数理情報学

理学系における教育課程編成の方針を踏まえ、数理情報学コースは以下に特に配慮して、教育課程を編成し、実施します。

① (DP1 に対応) 数理学と情報科学に関する分野の科目を体系的に配置します。

② (DP2 に対応) 問題解決能力を涵養し、より実践的な知識を獲得できるよう、コンピュータ演習科目や少人数制の輪講科目を配置します。

生命科学系

理工学部 of 生命科学系は、2 つの専門コースを設け、健康・医療分野あるいは食品・環境工学分野の専門知識や応用技術の基礎を身につけるとともに、その知識や技術を活用できる人材を育成することを目的として、以下の方針に基づいて教育課程を編成し、実施します。教育課程の実施に際して、主コースを生命科学系から 1 つ、副コースを生命科学系または他学系から 1 つ、それぞれ選択させて履修指導を行います。

(1) (DP1 に対応) 実学尊重を旨とし、生命科学全般の核となる生物学、化学、情報・統計学に関する科目や、2 つの専門コースに特化した知識や技術を学ぶ科目を配置します。また、各種の資格取得を目指す学生には、資格関連科目(教職科目を含む)を配置します。

(2) (DP2 に対応) 他者と協力して課題・問題解決する能力や、主体的に取り組む姿勢の養成を目的とし、ゼミ、実習、実験科目を学年進行に従い体系的に配置します。

(3) (DP3 に対応) 理工系の基礎知識を涵養するために、数学系科目、物理学や化学などの実験・実習を含む自然科学系科目、情報処理系科目等を主に 1 年次に配置します。基礎学力を固めるために、履修科目指導や習熟度別クラスを導入します。

(4) (DP4 に対応) 科学技術者としての倫理性を養う科目を配置します。「技術は人なり」の精神のもと、豊かな人間性や社会性を育むために人文系科目を配置します。キャリア意識を培うためにインターンシップを含む科目を配置します。

(5) (DP5 に対応) 国際的なコミュニケーション力を身につけるために、英語科目に加え、国際社会について学ぶ人文系科目を配置します。

コース名 : 分子生命科学コース

生命科学系における教育課程編成・実施の方針を踏まえ、分子生命科学コースは健康・医療分野で活躍できる人材の育成に重点をおき、以下の特色ある教育課程を編成します。

① (DP1 に対応) 生命現象を分子レベルで解き明かし、人々の健康維持や医療に活用する能力を養うため、それらに関係する専門科目を体系的に配置します。

② (DP2 に対応) 生体分子の生理機能や相互作用を解明するための研究手法や考察力を養うため、小グループによる実験・演習を進級条件科目として配置します。

コース名 : 環境生命工学コース

生命科学系における教育課程編成・実施の方針を踏まえ、環境生命工学コースは食品工学や環境工学分野で活躍できる人材の育成に重点をおき、以下の特色ある教育課程を編成します。

① (DP1 に対応) 環境保全及び食料や生物資源の生産・活用に必要な知識や思考力を育むため、それらに関係する専門科目を体系的に配置します。

② (DP2 に対応) 環境保全や食品製造に必要な技術や実践力を養うため、小グループによ

る実験・演習を進級条件科目として配置します。

情報システムデザイン学系

理工学部の情報システムデザイン学系は、4つの専門コースを設け、情報科学、情報システム、知能情報、プログラミング、情報社会、情報メディアなどの専門知識と理工学の基礎を身につけること及び人間性・社会性・国際性を育むことを目的として、以下の方針に基づいて教育課程を編成し、実施します。教育課程の実施に際して、主コースを情報システムデザイン学系から1つ、副コースを情報システムデザイン学系または他学系から1つ、それぞれ選択させて履修指導を行います。

(1) (DP1 に対応) 実学尊重を旨とし、情報システムデザイン学系における広い範囲をカバーする専門科目とコース特有の専門科目とを用意し、体系的に配置します。また、各種の資格取得を目指す学生には、資格関連科目(教職科目を含む)を配置します。

(2) (DP2 に対応) 課題・問題解決能力の育成を目的とした演習、実験・実習科目を学年進行に従い体系的に配置し、卒業研究論文の執筆と口頭発表に至るまでの一貫した指導を行います。

(3) (DP3 に対応) 理工系の基礎知識を涵養するために、数学系科目、物理学や化学などの実験・実習を含む自然科学系科目、情報処理系科目等を主に1年次に配置します。さらに、情報科学、情報工学、プログラミング、芸術などの実習科目等を1年次に配置します。基礎学力を固めるために、履修科目指導や習熟度別クラスを導入します。

(4) (DP4 に対応) 科学技術者としての倫理性を養う科目を配置します。「技術は人なり」の精神のもと、豊かな人間性や社会性を育むために人文系科目を配置します。キャリア意識を培うためにインターンシップを含む科目を配置します。

(5) (DP5 に対応) 国際的なコミュニケーション力を身につけるために、英語科目に加え、国際社会について学ぶ人文系科目を配置します。

コース名 : コンピュータソフトウェアコース

情報システムデザイン学系における教育課程編成の方針を踏まえ、コンピュータソフトウェアコースは、以下に特に配慮して教育課程を編成し、実施します。

① (DP1 に対応) ソフトウェアの理論的基礎となるコンピュータ科学の科目とともに、幅広い用途のソフトウェアの開発と利活用に必要な技術を修得するための科目を配置します。

② (DP2 に対応) ソフトウェアシステムの設計・構築に関する理論と応用を体系的かつ実践的に学べるよう、基礎、専門、応用に至る科目を段階的かつ体系的に配置します。

③ (DP3 に対応) 現代工学の基本であるハードウェアとソフトウェアを、横断的に学べる科目を配置します。

コース名 : 情報システムコース

情報システムデザイン学系における教育課程編成の方針を踏まえ、情報システムコースは、以下に特に配慮して教育課程を編成し、実施します。

① (DP1 に対応) 情報システムの構造と構成要素に関する技術を理解するための科目と、それらを組み合わせて設計・運用に活かす科目を、体系的に配置します。

② (DP2 に対応) ソフトウェア技術の枠を超えて、コンピュータ科学の理論と基礎から、様々な現象の情報化と活用技術まで学べるよう、基礎、専門、応用に至る科目を段階的かつ体系的に配置します。

③ (DP3 に対応) 現代工学の基本であるハードウェアとソフトウェアを、横断的に学べる科目を配置します。

コース名 : 知能情報デザインコース

情報システムデザイン学系における教育課程編成の方針を踏まえ、知能情報デザインコースは、以下に特に配慮して教育課程を編成し、実施します。

① (DP1 に対応) 人間の脳と心に関する知識を理解するための科目と、それらを組み合わせて人間中心のシステム設計・運用に係わる科目を、体系的に配置します。

② (DP2 に対応) 統計学・データ分析に関する科目と、人工知能に関するコンピュータソフトウェアの設計・開発について総合的に学べる科目を、体系的に配置します。

③ (DP3 に対応) 倫理的側面から人工知能、ネットワークシステムと人間・社会の関連を横断的に理解できるよう、文科系・理科系の統合的なコミュニケーション能力を育成する科目を配置します。

コース名 : アミューズメントデザインコース

情報システムデザイン学系における教育課程編成の方針を踏まえ、アミューズメントデザインコースは、以下に特に配慮して教育課程を編成し、実施します。

① (DP1 に対応) 技術・芸術・社会の相互性を意識化し、情報を編集・デザインし表現するための先端技術と、国際化や IT に対応するコミュニケーション能力を身につけることを目標に、文理複合型のカリキュラム構成とします。

② (DP2 に対応) 実習を含むアート&デザイン、情報社会、情報メディア科目を、1 年次から体系的に配置します。

③ (DP3 に対応) 理工学と芸術との関連を見出すための科目を 1 年次に配置し、段階的に新規分野への学習を深められるような指導を行います。

機械工学系

理工学部の機械工学系は、理工学の基礎知識に加えて、2 つの専門コースを設け、設計・解析並びに加工・制御の専門知識を身につけることを目的として、以下の方針に基づいて教育課程を編成し、実施します。

教育課程の実施に際して、主コースを機械工学系から 1 つ、副コースを機械工学系または他学系から 1 つ、それぞれ選択させて履修指導を行います。

(1) (DP1 に対応) 実学尊重を旨とし、機械工学系における広い範囲をカバーする専門科目とコース特有の専門科目とを用意し、体系的に配置します。また、各種の資格取得を目指す学生には、資格関連科目(教職科目を含む)を配置します。

(2) (DP2 に対応) 課題発見能力を養うとともに、その課題を論理的に説明する力、解決する力を育成するために、実験、実習、演習、ゼミを体系的に配置します。

(3) (DP3 に対応) 理工系の基礎知識を涵養するために、数学系科目、物理学や化学などの実験・実習を含む自然科学系科目、情報処理系科目等を主に 1 年次に配置します。基礎学力を固めるために、履修科目指導や習熟度別クラスを導入します。

(4) (DP4 に対応) 科学技術者としての倫理性を養う科目を配置します。「技術は人なり」の精神のもと、豊かな人間性や社会性を育むために人文系科目を配置します。キャリア意識を培うためにインターンシップを含む科目を配置します。

(5) (DP5 に対応) 国際的なコミュニケーション力を身につけるために、英語科目に加え、国際社会について学ぶ人文系科目を配置します。

コース名 : 設計・解析コース

(DP1 に対応) 機械工学系における教育課程編成・実施の方針を踏まえ、設計・解析コースでは、機械設計、機械の製作に必要な力学的な解析などの機械工学分野で活躍できる技術者を育成するために、専門に特化した科目を配置し、実施します。

コース名 : 加工・制御コース

(DP1 に対応) 機械工学系における教育課程編成・実施の方針を踏まえ、加工・制御コースでは、機械加工、機械を精密に運動させるための制御などの機械工学分野で活躍できる技術者を育成するために、専門に特化した科目を配置し、実施します。

電子情報・生体医工学系

理工学部の情報・生体医工学系は、2つの専門コースを設け、電気・電子工学、人間工学などの専門知識や技術の基礎を身につけることを目的に、以下の方針に基づいて教育課程を編成し、実施します。教育課程の実施に際して、主コースを電子情報・生体医工学系から1つ、副コースを電子情報・生体医工学系または他学系から1つ、それぞれ選択させて履修指導を行います。

(1) (DP1 に対応) 実学尊重を旨とし、電子情報・生体医工学系における広い範囲をカバーする専門科目とコース特有の専門科目とを用意し、体系的に配置します。また、各種の資格取得を目指す学生には、資格関連科目(教職科目を含む)を配置します。

(2) (DP2 に対応) 課題・問題解決能力の育成を目的とした実験科目及びゼミ科目を、学年進行に従い体系的に配置します。

(3) (DP3 に対応) 理工系の基礎知識を涵養するために、数学系科目、物理学や化学などの実験・実習を含む自然科学系科目、情報処理系科目等を主に1年次に配置します。基礎学力を固めるために、履修科目指導や習熟度別クラスを導入します。

(4) (DP4 に対応) 科学技術者としての倫理性を養う科目を配置します。「技術は人なり」の精神のもと、豊かな人間性や社会性を育むために人文系科目を配置します。キャリア意識を培うためにインターンシップを含む科目を配置します。

(5) (DP5 に対応) 国際的なコミュニケーション力を身につけるために、英語科目に加え、国際社会について学ぶ人文系科目を配置します。

コース名 : 電子情報コース

電子情報・生体医工学系における教育課程編成・実施の方針を踏まえ、電子情報コースは、ハードウェアとソフトウェアの両分野で活躍できる人材の育成に重点をおき、以下の特色ある教育課程を編成します。

① (DP1 に対応) 電気電子工学分野におけるハードウェアとソフトウェアの技術を養うため、それらに關係する専門科目を体系的に配置します。

② (DP1 に対応) ハードウェアとソフトウェア技術のそれぞれの特性の理解に必要な知識や思考力を育むため、それらに關係する専門科目を体系的に配置します。

③ (DP2 に対応) 電子情報工学に関する諸問題の解決に向けての研究手法や考察力を養うため、小グループによる実験及びゼミ科目を進級条件科目として配置します。

コース名 : 電子システムコース

電子情報・生体医工学系における教育課程編成・実施の方針を踏まえ、電子システムコースは、電子工学分野、システム工学の両分野で活躍できる人材の育成に重点をおき、以下の特色ある教育課程を編成します。

① (DP1 に対応) 電子システム工学分野における電子工学とシステム工学の技術を養うため、それらに關係する専門科目を体系的に配置します。

② (DP1 に対応) 電子工学とシステム工学の理解に必要な知識や思考力を育むため、それらに關係する専門科目を体系的に配置します。

③ (DP2 に対応) 電子システム工学に関する諸問題の解決に向けての研究手法や考察力を養うため、小グループによる実験を進級条件科目として配置します。

建築・都市環境学系

建築・都市環境学系は、2つの専門コースを設け、建築学、土木工学、都市工学、環境学などの専門知識や技術の基礎を身につけることを目的として、以下の方針に基づいて教育課程を編成し、実施します。教育課程の実施に際して、主コースを建築・都市環境学系から1つ、副コースを建築・都市環境学系または他学系から1つ、それぞれ選択させて履修指導を行います。

(1) (DP1 に対応) 実学尊重を旨とし、建築・都市環境学系における広い範囲をカバーする専門科目とコース特有の専門科目とを用意し、体系的に配置します。また、各種の資格

取得を目指す学生には、資格関連科目（教職科目を含む）を配置します。

（２）（DP2 に対応）実験、実習、デザイン演習、プロジェクト科目、卒業研究を、学年進行に従い体系的に配置します。

（３）（DP3 に対応）理工系の基礎知識を涵養するために、数学系科目、物理学や化学などの実験・実習を含む自然科学系科目、情報処理系科目等を主に 1 年次に配置します。基礎学力を固めるために、履修科目指導や習熟度別クラスを導入します。

（４）（DP4 に対応）科学技術者としての倫理性を養う科目を配置します。「技術は人なり」の精神のもと、豊かな人間性や社会性を育むために人文系科目を配置します。キャリア意識を培うためにインターンシップを含む科目を配置します。

（５）（DP5 に対応）国際的なコミュニケーション力を身につけるために、英語科目に加え、国際社会について学ぶ人文系科目を配置します。

コース名：建築コース

（DP1 に対応）「建築計画・意匠、建築法規、建築構造、建築環境・設備など」建築学を主コースとして、「都市計画、景観計画、防災工学、環境衛生工学、リモートセンシングなど」都市・環境学を副コースとして履修できるように配置します。

コース名：都市環境コース

（DP1 に対応）「都市計画、景観計画、防災工学、環境衛生工学、リモートセンシングなど」都市・環境学を主コースとして、「建築計画・意匠、建築法規、建築構造、建築環境・設備など」建築学を副コースとして履修できるように配置します。

共通教育群及び基礎教育センター（教養教育センター）

理工学部共通教育群・基礎教育センターは、豊かな人間を形成するための教養と確かな基礎学力を有し、国際社会に対応できる人材の養成を目指し、以下の方針に基づいて教育課程を編成し、実施します。

（DP1 に対応）教職課程科目を配置し、教師として子どもを教育する上で必要な教育実践を行い、かつ教師としての力量の基礎を培います。

（DP3 に対応）具体的に、かつ計算を重視して思考する基礎力を身につけるために、数学の魅力を知る数学科目を配置します。自然現象を物理的に見る目を涵養するとともに、専門科目の基礎となる実験的手法と論理的思考を身につけるために、物理科目を配置します。物質を理解し創製するという科学技術の基礎能力を養うために、化学科目を配置します。

（DP4 に対応）科学技術者としての倫理性を養う科目を配置します。「技術は人なり」の精神のもと、豊かな人間性や社会性を育むために人文系科目を配置します。

（DP5 に対応）国際的なコミュニケーション力を身につけるために、英語科目に加え、国際社会について学ぶ人文系科目を配置します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：東京電機大学 web サイト
<https://www.dendai.ac.jp/about/undergraduate/rikougaku/policies/>）

（概要）

理工学部

理工学部は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに従い、高度な専門性と豊かな人間性を兼ね備えた「未来型科学技術者」を養成します。本学の教育・研究理念である「技術は人なり」に共感し、次に掲げる知識・技術や能力、目的意識・意欲を持った学生を求めます。

（１）求める学生像

１. 理工学分野に強く興味を持ち、理工学部で修得した知識と技術を活かして未来の社会で活躍することを望む学生

２. 各種のプロジェクト科目や学部共通教育科目を通して、思考力・判断力・表現力・倫理観を修得し、幅広い教養を備えた未来型科学技術者を目指す学生

3. 理工学部における主コース・副コースの選択を通して、主体性を持って自らの学びを追求し、さらに多様な人々と協働して問題を解決しようとする意欲のある学生

(2) 入学前に学習しておくことが望ましい内容

高等学校等の課程全般の基礎的な知識・技術を学習しておくこと。

特に数学及び英語は、理工学部の全学系で求められる知識であるため、十分な基礎学力を身に付けておくこと。

加えて、理工学部の各学系が求める教科に関する基礎学力を身に付けておくこと。

理学系

理学系は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに従い、問題を本質的にとらえて解決できる創造性と専門性を備えた、21 世紀の社会に求められる人材を育成します。本学の教育・研究理念である「技術は人なり」に共感し、次に掲げる知識・技術や能力、目的意識・意欲を持った学生を求めます。

(1) 求める学生像

1. 理学分野（数学、物理、化学、数理情報学）に強く興味を持ち、専門的知識や技術を身につける能力を持った学生

2. 専門及び人文社会系の分野の科目の学習を通して、思考力・判断力・表現力・倫理観を修得し、理学分野において未来社会に貢献しようとする学生

3. 演習、実験、輪講科目を通して、主体性を持って多様な人々と協働して学び、自ら課題を発見し、解決する意欲のある学生

(2) 入学前に学習しておくことが望ましい内容

理工学部のアドミッション・ポリシーに加え、高等学校課程の数学Ⅰ・Ⅱ・A・B・C の範囲を十分理解し、さらに数学Ⅲの範囲も学習しておくことが望ましい。

また、理科（物理・化学のいずれか）に関して十分な基礎学力を身につけておくこと。

生命科学系

生命科学系は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに従い、生物がもつ高度な機能の本質を理解し、生命科学分野（「健康・医療」、「食品製造・物質生産」、「環境保全」の各分野）において、生命に関わる諸問題の解決に取り組む力を備えた人材を育成します。本学の教育・研究理念である「技術は人なり」に共感し、次に掲げる知識・技術や能力、目的意識・意欲を持った学生を求めます。

(1) 求める学生像

1. 生命科学分野に強く興味を持ち、化学・物理学や生物学を基礎として生命現象の解明や生物機能の活用に取り組む意欲のある学生

2. 生命科学系における実験・実習・ゼミ科目を通して、専門性を活かした思考力・判断力・表現力を修得し、実践力と倫理観を兼ね備えた科学技術者をを目指す学生

3. 生命科学系における学系共通科目と主コース専門科目の学びを通して、生命科学に関連した様々な分野で自らの役割を認識し、他者と協働して課題・問題を解決する意欲のある学生

(2) 入学前に学習しておくことが望ましい内容

理工学部のアドミッション・ポリシーに加え、高等学校課程の数学Ⅰ・Ⅱ・A・B・C を十分理解しており、さらに数学Ⅲの範囲も学習しておくことが望ましい。

加えて、理科・国語（物理・化学・生物・現代の国語及び言語文化（※近代以降の文章）のいずれか1つ以上）は十分な基礎学力を身につけておくこと。

情報システムデザイン学系

情報システムデザイン学系は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに従い、情報に関して統合的に研究する「情報学」の専門家を育成します。本学の教育・研究理念である「技術は人なり」に共感し、次に掲げる知識・技術や能力、目的意識・意欲を持った学生を求めます。

(1) 求める学生像

1. コンピュータシステムと人間・社会の関連に強く興味を持ち、自分の考えを論理的に構築し、効果的に表現する能力を持った学生
2. 情報技術と人間・社会・文化に関する幅広い知識の理解を通して、思考力・判断力・表現力・倫理観を修得し、情報学の専門家を目指す学生
3. 実験・実習科目などの実践を通して、主体性を持って多様な人々と協働して学び、自ら課題を発見し、解決する意欲のある学生

(2) 入学前に学習しておくことが望ましい内容

理工学部のアドミッション・ポリシーに加え、高等学校課程の数学Ⅰ・Ⅱ・A・B・Cを十分理解しており、さらに数学Ⅲの範囲も学習しておくことが望ましい。
加えて、理科・国語（物理・化学・現代の国語及び言語文化（※近代以降の文章）のいずれか）についても十分な基礎学力を身に付けておくこと。また芸術、社会についても学習しておくことが望ましい。

機械工学系

機械工学系は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに従い、基礎学力を身につけ、新しいものづくり技術に興味を抱き、粘り強く問題の解決に取り組むことのできる「機械工学のフロンランナー」を育成します。本学の教育・研究理念である「技術は人なり」に共感し、次に掲げる知識・技術や能力、目的意識・意欲を持った学生を求めます。

(1) 求める学生像

1. 機械工学分野に強く興味を持ち、機械工学系で修得した知識と技術を活かして社会の発展に貢献し、活躍することを望む学生
2. コース専門科目及び学部・学系共通科目を通して、思考力・判断力・表現力・倫理観を修得し、幅広い教養に基づいた深い洞察力と広い視野を備えた技術者をを目指す学生
3. 機械工学系における学びのハイライトとなる実験・実習、設計製図、卒業研究を通じて、多様な人々と協働して学び、自ら課題を発見し、困難に直面しても粘り強く問題を解決しようとする強い意欲を持つ学生

(2) 入学前に学習しておくことが望ましい内容

理工学部のアドミッション・ポリシーに加え、高等学校課程の数学Ⅰ・Ⅱ・A・B・Cを十分理解しており、さらに数学Ⅲの範囲も学習しておくこと。
また、理科（物理・化学のいずれか）に関して十分な基礎学力を身につけておくこと。

電子情報・生体医工学系

電子情報・生体医工学系は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに従い、高度な専門性と豊かな人間性を兼ね備えた「電気電子工学分野、並びに生体医工学分野の高度専門技術者」を養成します。本学の教育・研究理念である「技術は人なり」に共感し、次に掲げる知識・技術や能力、目的意識・意欲を持った学生を求めます。

(1) 求める学生像

1. 電気電子工学分野、並びに生体医工学分野に強く興味を持ち、数学、物理、英語に対して高い能力、関心をもった学生
2. 講義、演習、実験・実習、課題・問題解決型の各科目を通し、思考力・判断力・表現

力・倫理観を修得し、通信・情報、エネルギー・制御、材料・エレクトロニクスなどの電気電子工学分野、並びに医療機器、人工臓器、再生医療、福祉機器などの生体医工学分野のより高度な専門知識を身につけることを目指す学生

3. ものづくりを学ぶことを通して主体性を持って多様な人々と協働し、自ら課題を発見、解決しようとする意欲のある学生

(2) 入学前に学習しておくことが望ましい内容

理工学部のアドミッション・ポリシーに加え、高等学校課程の数学Ⅰ・Ⅱ・A・B・Cを十分に理解しており、さらに数学Ⅲの範囲も学習しておくことが望ましい。

加えて、理科（物理・化学・生物のいずれか）に関して十分な基礎学力を身につけておくこと。

建築・都市環境学系

建築・都市環境学系は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに従い、高度な専門性と豊かな人間性を備えた「地球環境に優しい未来型の建築・都市環境の技術者・専門家」を育成します。本学の教育・研究理念である「技術は人なり」に共感し、次に掲げる知識・技術や能力、目的意識・意欲を持った学生を求めます。

(1) 求める学生像

1. 地球に優しく、人間と自然が調和した建築・都市環境を構築することに大いに興味を持ち、専門分野や一般分野を幅広く学習し、その実現のための知識を吸収する能力を持った学生

2. 各種のプロジェクト科目、コース専門科目や学部共通教育科目を通して、思考力・判断力・表現力・倫理観を修得し建築・都市環境の技術者や専門家を目指す学生

3. 実験・実習科目、デザイン演習科目、卒業研究等において、主体性を持って多様な人々と協働して学び、自ら課題を発見・設定し、それらを解決しようと努める意欲のある学生

(2) 入学前に学習しておくことが望ましい内容

理工学部のアドミッション・ポリシーに加え、高等学校課程の数学Ⅰ・Ⅱ・A・B・Cを十分に理解しており、さらに数学Ⅲの範囲を学習しておくことが望ましい。

また、理科（物理・化学のいずれか）に関して十分な基礎学力を身につけておくことが望ましい。

入学者選抜における取組

(1) 記述式問題

本学一般選抜及び学校推薦型選抜の一部の選抜において、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」を評価するため、自らの考えを立論し、それを表現するなどの記述式問題を含む試験問題を出題しています。

(2) 英語資格・英語検定試験の活用

本学の「一般選抜（前期・英語外部試験利用）」及び「一般選抜（後期・英語外部試験利用）」では、本学が指定した英語資格・英語検定試験のスコアまたは基準値（※CEFR「A2」以上）を「出願資格」として利用し、英語の試験を免除しています。

(3) 情報系資格の活用

本学の「一般選抜（情報系外部試験利用）」（※2024（令和6）年度一般選抜より実施）では、「基本情報技術者試験」または「応用情報技術者試験」の合格を「出願資格」として利用し、理科（国語を含む）の試験を免除しています。（※対象となる学系は理学系、情報システムデザイン学系、電子情報・生体医工学系）

(4) 経済的な配慮・支援

「一般選抜（前期）」において、成績優秀（＊3 教科合計得点 225 点以上/300 点満点）で社会に貢献できる技術者を目指す新入生に対して、経済的負担を軽減する目的として年間 35 万円を給付し、学業成績要件を満たせば最長 4 年間給付しています。

学部等名 未来科学部
教育研究上の目的（公表方法：学生要覧、東京電機大学 web サイト https://www.dendai.ac.jp/about/campuslife/youran/tokyo_senju.html ）
（概要） 未来科学部は、21 世紀において人類の知的生産活動にふさわしい生活空間（知的住空間、知的情報空間、知的行動空間）を創造することに必要な科学技術とそれを実社会に適用する能力を修得させることを目的とします。 すなわち、自ら問題を発見し解決する能力（プロの能力）と、広い視野と時代の方向性を見通すことのできる心の構え（豊かな教養）を併せ持つ技術者を養成します。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：東京電機大学 web サイト https://www.dendai.ac.jp/about/undergraduate/mirai_kagaku/policies/ ）
（概要） 未来科学部 未来科学部に所定の期間在学し（※）、本学部の教育目標を達成するために開設した各学科の授業科目を履修して所定の単位を修得し、以下の自ら問題を発見し解決する能力（プロの能力）と広い視野とコミュニケーション能力を身につけた学生に対して卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与します。 （1）実学尊重を旨として、科学技術の礎となる建築学（住）、情報メディア学（知）、ロボット・メカトロニクス学（動）の3分野のうち、1つの専門分野の科学技術の知識と技術を持つこと。（DP1） （2）安心・安全で快適な生活空間を創り出す「住・知・動」の3分野のうち、自らの専門的知識と専門的技術を活用し、さまざまな課題に挑戦し、解決する実践力を持つこと。（DP2） （3）理工系の幅広い基礎知識を持つと共に、常に新しい知識の獲得に努める積極的な姿勢を持つこと。（DP3） （4）「技術は人なり」の精神のもと、科学技術と人間・社会との関わりを理解し、科学技術者として、また良識のある社会人として必要な教養、キャリア意識、倫理観を持つこと。（DP4） （5）グローバルな視野を持ち、将来、科学技術者として必要なコミュニケーション力などの汎用的能力を身につけること。（DP5） ※標準修業年限4年 建築学科 建築学科は、未来科学部の学位授与方針をもとに、以下の全てを満たした者を、建築学の情報・解析・表現・設計・デザインの技術に基づく「計画・意匠」「構造・生産」「環境・設備」「歴史・都市」「住環境・インテリア」分野の専門能力と豊かな教養を併せ持つ技術者と認定し、学士（工学）の学位を授与します。 （1）実学尊重を旨として、建築学の情報・解析・表現・設計・デザインの技術に基づく「計画・意匠」「構造・生産」「環境・設備」「歴史・都市」「住環境・インテリア」分野の専門能力を修得すること。（DP1） （2）社会の情報化や国際化にも対応し、建築のプロフェッショナルな能力と豊かな教養を兼ね備えた人材であること。（DP2） （3）理工系の幅広い基礎知識を持つと共に、常に新しい知識の獲得に努める積極的な姿勢を持つこと。（DP3） （4）「技術は人なり」の精神のもと、科学技術と人間・社会との関わりを理解し、科学技術者として、また良識のある社会人として必要な教養、キャリア意識、倫理観を持つこと。（DP4） （5）グローバルな視野を持ち、将来、科学技術者として必要なコミュニケーション力などの汎用的能力を身につけること。（DP5）

※標準修業年限 4 年

情報メディア学科

情報メディア学科は、未来科学部の学位授与方針をもとに本学に所定の期間（※）在学し、卒業に必要な単位を修得して次の学修成果を上げた者を、「コンピュータサイエンス」「デジタルメディア」分野の専門能力と豊かな教養を併せ持つ技術者と認定し、学士（工学）の学位を授与します。

（１）実学尊重を旨として、知的情報空間を創造するに必要な情報メディア学の基盤分野、すなわち「コンピュータサイエンス」「デジタルメディア」分野の科学技術の知識と技術を持つこと。（DP1）

（２）情報メディア学の知識と技術を、実社会に適用する能力を持つこと。（DP2）

（３）理工系の幅広い基礎知識を持つと共に、常に新しい知識の獲得に努める積極的な姿勢を持つこと。（DP3）

（４）「技術は人なり」の精神のもと、科学技術と人間・社会との関わりを理解し、科学技術者として、また良識のある社会人として必要な教養、キャリア意識、倫理観を持つこと。（DP4）

（５）グローバルな視野を持ち、将来、科学技術者として必要なコミュニケーション力などの汎用的能力を身につけること。（DP5）

※標準修業年限 4 年

ロボット・メカトロニクス学科

ロボット・メカトロニクス学科は、ものを自在に動かすことで人類の知的生産活動を促進する知的行動空間を創造するための技術と、それを実社会に適用する能力を習得させることを教育目的としています。そして、本学科が属する未来科学部の学位授与方針に基づき、以下のすべてを満たした者を、ロボット工学を含むメカトロニクス工学の「機械制御」、「電気電子制御」、「情報制御」の各分野の専門能力と豊かな教養をあわせ持つ技術者と認定し、学士（工学）の学位を授与します。

（１）実学尊重を旨として、機械、電気、情報及び制御を基礎としたメカトロニクス工学に関する専門分野の科学的知識と実践的技術を持つこと。（DP1）

（２）自らの専門知識と技術を活用し、さまざまな課題に挑戦し、解決する実践力を持つこと。（DP2）

（３）理工系の幅広い基礎知識を持つとともに、常に新しい知識の獲得に努める積極的な姿勢を持つこと。（DP3）

（４）「技術は人なり」の精神のもと、科学技術の人間や社会との関わりを理解し、科学技術者として、また良識のある社会人として必要な教養、キャリア意識、倫理観を持つこと。（DP4）

（５）グローバルな視野を持ち、将来、科学技術者として必要なコミュニケーション力などの汎用的能力を身につけること。（DP5）

※標準修業年限は 4 年

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：東京電機大学 web サイト
https://www.dendai.ac.jp/about/undergraduate/mirai_kagaku/policies/）

(概要)

未来科学部

未来科学部は、基礎学力から高い専門性までを有する技術者を養成するために、学部から大学院修士課程まで一貫性のあるカリキュラム編成を柱とし、「プロの能力」を養成します。併せて、「豊かな教養」を養成する教育課程を編成し、実施します。

(1) 実学尊重を旨とし、本学部の3つの専門分野の多様性を意識した幅広い専門科目群を用意し、学科ごとにその教育目標を達成させるために講義、演習、実験・実習を体系的に配置します。また、専門分野に応じて大学院の先取り科目を設置すると共に、各種の資格取得を目指す学生には、資格関連科目(教職科目を含む)を配置します。

(2) 専門知識と専門技能を活用して課題解決ができる能力を培うために、多数の実験・実習・ワークショップ科目を配置します。

(3) 理工系の基礎知識を涵養するために、自然科学科目などの共通教育科目を配置します。また、数学、英語科目では習熟度別クラスで基礎学力を固めます。

(4) キャリア科目やインターンシップを配置し、キャリア意識を培うとともに、「技術は人なり」の精神のもと、豊かな人間性、科学技術者としての倫理性を培うことを目的として人間理解、社会理解、技術者教養などの科目群のもとに人間科学科目を配置します。

(5) グローバルな環境で意思疎通ができる能力を涵養する科目を配置すると共に、英語科目のみならず、コミュニケーション力などの汎用的能力を培う科目を配置します。

建築学科

建築学科は、設計演習科目と情報技術科目を基軸として、「計画・意匠」「構造・生産」「環境・設備」「歴史・都市」「住環境・インテリア」の5分野の科目で構成された、学部から大学院修士課程まで一貫性のあるカリキュラムを柱とします。

(1-1) (DP1 に対応) 実学尊重を旨とし、学部と大学院修士課程の6年一貫教育を実現すべく「計画・意匠」「構造・生産」「環境・設備」「歴史・都市」「住環境・インテリア」分野の知識習得科目群と、設計演習科目、情報技術科目を配置します。

(1-2) (DP1 に対応) 個性を活かした習熟を支援し、高度な専門性を養い、一級建築士などの資格取得にも十分な技能を修得できるよう建築資格講座、特別研究・設計科目群を配置します。

(2-1) (DP2 に対応) 特色ある教育のひとつとして、設計演習科目と情報技術科目を基軸として、それらと連携して展開する多様な知識習得科目を配置し、建築学分野の基盤を成す知識と技術、また他者と対話し、自己を表現できる能力の獲得と深化を支援します。

(2-2) (DP2 に対応) 学内及び学外における長期インターンシップ制度を導入して、建築の実務を体験させ、広く社会で活躍する技術者や研究者の育成のためにインターンシップ科目を配置します。(6年一貫教育の集大成、大学院修士課程)

(3) (DP3 に対応) 理工系の基礎知識として、数学、自然科学、情報の基礎科目を配置するとともに、技術者育成の導入科目としてワークショップを配置し、さらに資格関連科目(教職関連科目を含む)を配置します。

(4) (DP4 に対応) 「技術は人なり」の精神のもと、科学技術者として必要な教養を身につけるための人間形成科目を配置します。

(5) (DP5 に対応) グローバルなコミュニケーション能力を身につけることができる英語科目を配置します。

情報メディア学科

情報メディア学科は、知的情報空間を創造するのに必要な情報メディア技術とそれを実社会に適用する能力を修得することを目的として、以下の方針に基づいて教育課程を編成し、実施します。

(1) 実学尊重を旨とし、「コンピュータサイエンス」「デジタルメディア」分野の、科

学技術の知識と技術を学ぶための科目を配置します。これら科目は、6つの科目群、すなわち数理科目、メディア基礎科目、プログラミング基礎科目、情報基礎科目、情報応用科目、ユニット専門科目に分類します。それぞれに、講義及び演習科目を体系的に配置します。ユニット専門科目では、将来の進路を踏まえて選択できる専門性の高い科目を配置します。各種の資格取得を目指す学生には、資格関連科目（教職科目を含む）を配置します。

（2）実社会における技術的問題を解決する能力を涵養する科目、及び課題解決型学習を取り入れた少人数を対象とするワークショップ、ゼミ、卒業研究等を配置します。

（3）理工系の基礎知識を涵養するために、基礎学力を固める習熟度別クラスを設けた数学科目や自然科学科目を配置します。

（4）キャリア科目やインターンシップを配置し、キャリア意識を培うとともに、「技術は人なり」の精神のもと、豊かな人間性、科学技術者としての倫理性を培うことを目的として人間理解、社会理解、技術者教養などの科目群のもとに人間科学科目を配置します。

（5）グローバルな環境で意思疎通ができる能力を涵養する科目を配置すると共に、英語科目のみならず、コミュニケーション力などの汎用的能力を培う科目を配置します。

ロボット・メカトロニクス学科

未来科学部ロボット・メカトロニクス学科は、時代の変化に適応してものづくりができる技術者・研究者を養成するために、機械、電気、情報、及び制御の専門分野と、これらを統合するシステムインテグレーションを柱としたカリキュラムを提供します。そして、多様化する社会で国際的に活躍できる人材を輩出するため、さらに高度な専門知識を学ぶ大学院への進学にもつながるカリキュラムとなっています。

（1）実学尊重を旨とし、初年度には、専門分野に共通する知識と技術の基礎を培うために、各専門の基礎となる科目を必修科目として配置します。2、3年次には、4分野の専門性を深化させるための選択科目を配置します。4年次には、システムインテグレーション力を養うための統合科目と卒業研究を配置します。各種の資格取得を目指す学生には、資格関連科目（教職科目を含む）を配置します。（DP1に対応）

（2）実践力の習得のために、4年間を通して、実験、実習、課題解決型学習の科目（※）を配置します。また、専門数学科目を3年間にわたって配置します。（DP2に対応）

（3）理工系の基礎知識として、数学、自然科学、情報の基礎科目を配置するとともに、技術者育成の導入科目としてワークショップを配置します。（DP3に対応）

（4）キャリア科目やインターンシップを配置し、キャリア意識を醸成するとともに、「技術は人なり」の精神のもと、豊かな人間性、科学技術者としての倫理性を培うことを目的として人間理解、社会理解、技術者教養などの科目群からなる人間科学科目を配置します。（DP4に対応）

（5）グローバルな環境で意思疎通ができる能力を涵養する科目を配置するとともに、英語科目のみならず、コミュニケーション力などの汎用的能力を培う科目を配置します。（DP5に対応）

※課題解決型学習： Problem-Based Learning、または Project-Based Learning（略称は「PBL」）

人間科学科目

（1）「技術は人なり」の精神のもと、科学技術と人間・社会との関わりを理解し、科学技術者として、また良識ある社会人として必要な教養を身につけ、豊かな人間性と倫理性を培うために、技術者教養科目群、人間・社会理解科目群、スポーツ・健康科目群を配置します。

（2）グローバルな環境で意思疎通ができる能力を涵養するためにグローバル教養科目群を、コミュニケーション力などの汎用的能力を涵養し、また科学技術者としてのキャリア意識を培うために、ジェネリックスキル・キャリア科目群を配置します。

英語科目

(1) 英語科目では、1 年次・2 年次の基幹科目群において、個々の学生の英語力を最大限に向上させるために、習熟度別クラスを配置します。

(2) 2 年次以降の発展科目群においては、基礎学力の備わった学生を対象に、コミュニケーション能力を向上させるために、技能別の演習科目を配置します。

(3) 3 年次においては、プレゼンテーションやビジネスにおけるコミュニケーションをはじめとする様々な場面での英語の運用力を身につけさせるための科目を配置します。

(4) 4 年次においては、アカデミックなコミュニケーション能力を涵養するために、時事的な文章や英語の学術論文を活用して、論文の読み方や書き方の基礎を学習し、自分の意見を論理的に表現できるようにするための科目を配置します。

数学科目

(1) 数学科目では、科学技術者として必要不可欠な基礎的数学を理解させるために、「微分積分学及び演習 I」と「線形代数学 I」を配置します。

(2) 個々の学生の能力に応じて基礎的数学を無理なく理解させるために、1 年次の共通科目に於いて、習熟度別クラスを配置します。

自然科学技術科目

(1) 理工系の学生に共通の幅広い基礎知識を涵養するために、物理学・化学の講義科目を配置します。講義科目においては、学習を効果的かつ確実なものとするため、原則的に習熟度別クラスを設置します。また、基本的な実験技術及び表現力の修練のために、物理及び化学の実験を配置します。

(2) 自立的な学習姿勢と問題解決能力を涵養するために、実験科目においては、実験に関連した発展事項を調査し報告書に整理して記載するよう指導します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：東京電機大学 web サイト

https://www.dendai.ac.jp/about/undergraduate/mirai_kagaku/policies/）

（概要）

未来科学部

未来科学部は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに則り、自ら問題を発見し解決する能力（プロの能力）と広い視野と、時代の方向性を見通すことのできる心構え（豊かな教養）を併せ持つ技術者を育成します。本学の教育・研究理念である「技術は人なり」に共感し、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を持ち、社会への貢献に強い関心を有する学生を求めます。

（1）求める学生像

1. 未来科学部の各分野での技術に強く興味を持ち、基礎学力を身につけている学生
2. 多様な学部共通科目の履修を通して、思考力・判断力・表現力・倫理観を修得し、豊かな教養を持つ技術者を目指す学生
3. 未来科学部における多様な専門科目の履修を通して、主体性を持って多様な人々と協働して学び、自ら課題を発見し、解決する意欲のある学生

（2）入学前に学習しておくことが望ましい内容

高等学校等の課程全般の基礎的な知識・技能を学習しておくこと。

特に数学、理科（物理・化学）、英語及び国語（現代文）は、十分な基礎学力を身に付けておくこと。

建築学科

建築学科は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに則り、建築・都市のあり方を探求し、その職能を通じて社会に貢献する意欲を持ち、新たな空間を創出するための豊富な知識と確かな技術、そして豊かな教養を兼ね備えた設計者・技術者・研究者を育成します。本学の教育・研究理念である「技術は人なり」に共感し、次に掲げる知識・

技能や能力、目的意識・意欲を持ち、社会への貢献に強い関心を有する学生を求めます。

(1) 求める学生像

1. 建築学の各分野での技術に強く興味を持ち、基礎学力を身につけている学生
2. 多様な学部共通科目の履修を通して、思考力・判断力・表現力・倫理観を修得し、豊かな教養を持つ技術者をを目指す学生
3. 建築学科における多様な専門科目の履修を通して、主体性を持って多様な人々と協働して学び、自ら課題を発見し、解決する意欲のある学生

(2) 入学前に学習しておくことが望ましい内容

未来科学部のアドミッション・ポリシーに加え、数学は高等学校課程の数学Ⅰ・Ⅱ・A・B・Cまでを十分理解し、数学Ⅲの範囲も学習しておくことが望ましい。また、理科は、基礎を付さない「物理」または「化学」を学習しておくことが望ましい。

情報メディア学科

情報メディア学科は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに則り、技術、表現、デザインなどのさまざまな観点からコンピュータサイエンスとメディア学を融合させ、情報とメディアへの深い理解を有するとともに、高度情報化社会の基盤をしっかりと支え、次世代の技術を自ら生み出していくことのできる技術者を育成します。本学の教育・研究理念である「技術は人なり」に共感し、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を持ち、社会への貢献に強い関心を有する学生を求めます。

(1) 求める学生像

1. 情報メディア学の各分野での技術に強く興味を持ち、基礎学力を身につけている学生
2. 多様な学部共通科目の履修を通して、思考力・判断力・表現力・倫理観を修得し、豊かな教養を持つ技術者をを目指す学生
3. 情報メディア学科における多様な専門科目の履修を通して、主体性を持って多様な人々と協働して学び、自ら課題を発見・解決し、その過程及び結果を発信する意欲のある学生

(2) 入学前に学習しておくことが望ましい内容

未来科学部のアドミッション・ポリシーに加え、数学は高等学校課程の数学Ⅰ・Ⅱ・A・B・Cまでを十分理解し、数学Ⅲの範囲も学習しておくことが望ましい。また、理科は、基礎を付さない「物理」または「化学」を学習しておくことが望ましい。

ロボット・メカトロニクス学科

ロボット・メカトロニクス学科は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、ものを自在に動かす知的システムを創造するための実習や設計製作と、さらに関連する理論の講義と演習を通して、豊かな教養、及び問題発見力と解決力を身につけた創造性豊かな技術者を育成します。本学の教育・研究理念である「技術は人なり」に共感し、次に掲げる知識や技能、能力、そして目的意識と意欲を持ち、社会への貢献に強い関心を有する学生を求めます。

(1) 求める学生像

1. ロボット工学を含むメカトロニクス工学の各分野の技術に強い興味を持ち、基礎学力を身につけている学生
2. 多様な共通教育科目の履修を通して論理的思考力、判断力、表現力を養い、高い倫理観と豊かな教養を身につけた技術者をを目指す学生
3. ロボット・メカトロニクス学科における専門科目の履修を通して、主体性を持って多様な人々と協働して学び、自ら課題を発見し、解決する能力を修得しようとする学生

(2) 入学前に学習しておくことが望ましい内容

未来科学部のアドミッション・ポリシーに加え、数学は高等学校課程の数学Ⅰ・Ⅱ・A・B・Cまでを十分理解し、数学Ⅲの範囲も学習しておくことが望ましい。また、理科は、基礎を付さない「物理」または「化学」を学習しておくことが望ましい。

入学者選抜における取組

(1) 記述式問題

本学一般選抜及び学校推薦型選抜の一部の選抜において、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」を評価するため、自らの考えを立論し、それを表現するなどの記述式問題を含む試験問題を出題しています。

(2) 英語資格・英語検定試験の活用

本学の「一般選抜（前期・英語外部試験利用）」及び「一般選抜（後期・英語外部試験利用）」では、本学が指定した英語資格・英語検定試験のスコアまたは基準値（※CEFR「A2」以上）を「出願資格」として利用し、英語の試験を免除しています。

(3) 情報系資格の活用

本学の「一般選抜（情報系外部試験利用）」（※2024（令和6）年度一般選抜より実施）では、「基本情報技術者試験」または「応用情報技術者試験」の合格を「出願資格」として利用し、理科（国語を含む）の試験を免除しています。

(4) 経済的な配慮・支援

「一般選抜（前期）」において、成績優秀（※3教科合計得点225点以上/300点満点）で社会に貢献できる技術者を目指す新入生に対して、経済的負担を軽減する目的として年間35万円を給付し、学業成績要件を満たせば最長4年間給付しています。

学部等名 システムデザイン工学部
教育研究上の目的（公表方法：学生要覧、東京電機大学 web サイト https://www.dendai.ac.jp/about/campuslife/youran/tokyo_senju.html ）
（概要） システムデザイン工学部は、情報とシステム及びデザイン工学分野の知識に裏付けられた確かな問題解決能力を有し、それにより、自然・社会と調和し、人間がより充実した生活が営める環境を構築できる人材を養成します。 すなわち、自然・社会と調和し、人間がより充実した生活が営める環境を構築できる人材を養成するために、必要な専門知識と技術を学ばせるとともに、科学技術者としての高い倫理観と、時代の変化とグローバル化に対応できる能力を涵養することを目的とします。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：東京電機大学 web サイト https://www.dendai.ac.jp/about/undergraduate/system_design/policies/ ）
（概要） システムデザイン工学部 システムデザイン工学部に所定の期間在学し（※）、システムデザイン工学部の教育目標を達成するために開設した各学科の授業科目を履修して所定の単位を修得し、以下の知識、能力、姿勢を身につけた学生に対して卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与します。 （１）実学尊重を旨として、システムデザイン工学の礎となる情報システム工学及びデザイン工学の２分野のうち、１つの専門分野の科学技術の知識と技術を持つこと。（DP1） （２）課題を自ら認識し、自らの専門的知識と技術の活用と他分野の知識・技術との統合により、さまざまな課題に挑戦し、それを解決する実践力を持つこと。（DP2） （３）システムデザイン工学の学修に必要な、理工系の幅広い基礎知識を持つと共に、常に新しい知識の獲得に努める積極的な姿勢を持つこと。（DP3） （４）「技術は人なり」の精神のもと、科学技術と人間・社会との関わりを理解し、価値観の多様性と変化への対応力を持つこと。科学技術者として、また良識のある社会人として必要な教養、キャリア意識、倫理観を持つこと。（DP4） （５）グローバルな環境のなかで、多様な価値観を受け入れ、技術者として行動できるコミュニケーション能力を身につけること。（DP5） ※標準修業年限 4 年 情報システム工学科 情報システム工学科は、システムデザイン工学部の学位授与方針をもとに、本学に所定の期間（※）在学して、卒業に必要な単位を修得し、次の学修成果を上げた者に対して学士の学位（工学）を授与します。 （１）実学尊重を旨として、情報システム工学の主要３分野、すなわち、「コンピュータ」、「ネットワーク」、「データサイエンス」分野の知識と技術を持つこと。（DP1） （２）情報システム工学の知識と技術を実世界における課題に適用し、それを解決する実践力を持つこと。（DP2） （３）情報システム工学の学修に必要な、理工系の幅広い基礎知識を持つと共に、常に情報システム分野の新しい知識の獲得に努める積極的な姿勢を持つこと。（DP3） （４）「技術は人なり」の精神のもと、情報システム技術と人間・社会に関係する課題について問題意識を持ち、価値観の多様性と変化への適応力を持つこと。（DP4） （５）グローバル環境の中で、多様な価値観を受け入れ、技術者として行動できるコミュニケーション能力を身につけること。（DP5） ※標準修業年限 4 年

デザイン工学科

デザイン工学科は、システムデザイン工学部の学位授与方針をもとに、本学に所定の期間（※）在学して、卒業に必要な単位を修得し、次の学修成果を上げた者に対して学士の学位（工学）を授与します。

- （１）実学尊重を旨として、デザイン工学の目的である「モノ・サービス・空間」を創造するために必要な工学分野及び人間・社会科学分野の知識と技術を持つこと。（DP1）
- （２）工学の知識・技術と人間・社会科学の知識を統合することにより、ひとの魅力的な生活空間の創造に必要なデザインの実践力を持つこと。（DP2）
- （３）デザイン工学の学修に必要な理工系の幅広い基礎知識を持つと共に、常にデザイン工学分野の新しい知識の獲得に努める積極的な姿勢を持つこと。（DP3）
- （４）「技術は人なり」の精神のもと、デザインを通して、科学技術と人間・自然・社会との関わりを深く理解し、そこに存在する課題について問題意識を持ち、解決する意識を持つこと。（DP4）
- （５）グローバルな環境の中で、多様な価値観を受け入れ、技術者として行動できるコミュニケーション能力を身につけること。（DP5）

※標準修業年限 4 年

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：東京電機大学 web サイト

https://www.dendai.ac.jp/about/undergraduate/system_design/policies/）

（概要）

システムデザイン工学部

システムデザイン工学部は、本学部の教育目標を達成するため、以下のように教育課程を編成し、実施します。

- （１）実学尊重を旨とし、システム工学部の 2 つの専門分野の多様性を意識した幅広い専門科目群を用意し、学科ごとにその教育目標を達成させるために講義、演習、実験・実習、プロジェクトを体系的に配置します。各種の資格取得を目指す学生には、資格関連科目（教職科目を含む）を配置します。
- （２）専門知識と技能を活用して課題解決ができる能力を培うために、多数の実験・実習・ワークショップ科目、及びアクティブラーニング及び PBL 科目などの課題解決型学修を取り入れた科目を配置します。
- （３）理工系の基礎知識を涵養するために、共通教育科目として、数学科目や自然科学科目を配置するとともに、学科独自の基礎知識の涵養のための科目を配置します。
- （４）「技術は人なり」の精神のもと、豊かな人間性や科学技術者としての倫理性を培う人間・社会科学科目、情報倫理や技術者倫理関連科目を配置します。
- （５）異文化を理解し、多様な価値観を受け入れ、国際的なコミュニケーション能力を身につけるための科目を配置します。

情報システム工学科

情報システム工学科は、本学科の教育目標を達成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成し、実施します。

- （１）実学尊重を旨とし、情報システム工学科は、「コンピュータ」、「ネットワーク」、「データサイエンス」分野の知識と技術を学ぶための科目を配置します。これら科目は、6 つの科目群、すなわち、ネットワーク科目、コンピュータ科目、プログラミング科目、データベース科目、データ解析科目、演習プロジェクト科目に分類します。それぞれに、講義科目、演習科目、実験科目及びアクティブラーニングのための PBL (Problem Based-Learning) 科目を体系的に配置します。また、情報関係の資格取得、資格に関連する科目を配置します。そして、教員免許取得を目指す学生には、対応する教職科目を配置します。
- （２）実社会における情報システムの課題を解決する能力を涵養する科目、及び、課題解

決型学修を取り入れた少人数を対象とするプロジェクト科目、PBL（Problem Based Learning）科目、卒業研究等を配置します。

（３）理工系の基礎知識を涵養するために、共通教育科目として数学科目や自然科学科目を配置します。また、コンピュータサイエンスや統計学等の科目を学科専門科目として配置します。

（４）「技術は人なり」の精神のもと、情報システム技術と人間・社会に関係する課題について問題意識を持ち、価値観の多様性と変化への適応力を養うために、人間科学系科目、情報倫理や技術者倫理関連科目を配置します。

（５）多様な価値観を受け入れ、グローバルな環境の中、技術者として行動できるコミュニケーション能力を身につけるために、英語による専門科目及びその能力を涵養する英語科目を設置します。

デザイン工学科

デザイン工学科は、本学科の教育目標を達成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成し、実施します。

（１）実学尊重を旨とし、デザイン工学の目的である「モノ・サービス・空間」を創造するに必要な工学分野及び人間・社会科学分野の知識と技術を学ぶための科目を配置します。これら科目は、４つの科目群、すなわち、学科基礎科目、デザイン手法科目、デザイン実践科目、工学専門（電気電子系、機械系、情報系）科目に分類します。それぞれに、講義科目、演習科目、及びアクティブラーニングのためのPBL（Problem Based-learning）科目を体系的に配置します。また、教員免許取得を目指す学生には、対応する教職科目を配置します。

（２）工学の知識・技術と人間・社会科学の知識の統合により問題を解決する能力を涵養する科目、及び、課題解決型学修を取り入れた少人数を対象とするプロジェクト科目、PBL科目、卒業研究等を配置します。

（３）理工系の基礎知識を涵養するために、共通教育科目として数学科目や自然科学科目を配置します。また、工学系基礎科目、人間・社会科学等の科目を学科専門科目として配置します。

（４）「技術は人なり」の精神のもと、科学技術と人間・社会に関係する課題について問題意識を持ち、豊かな人間性を培うための基礎科目及び社会倫理、情報倫理や技術者倫理関連科目を配置します。

（５）多様な価値観を受け入れ、グローバルな環境の中、技術者として行動できるコミュニケーション能力を身につけるために、英語による専門科目及びその能力を涵養する英語科目を設置します。

人間科学科目

（１）「技術は人なり」の精神のもと、科学技術と人間・社会との関わりを理解し、科学技術者として、また良識ある社会人として必要な教養を身につけ、豊かな人間性と倫理性を培うために、技術者教養科目群、人間・社会理解科目群、スポーツ・健康科目群を配置します。

（２）グローバルな環境で意思疎通ができる能力を涵養するためにグローバル教養科目群を、コミュニケーション力などの汎用的能力を涵養し、また科学技術者としてのキャリア意識を培うために、ジェネリックスキル・キャリア科目群を配置します。

英語科目

（１）英語科目では、１年次・２年次の基幹科目群において、個々の学生の英語力を最大限に向上させるために、習熟度別クラスを配置します。

（２）２次以降の発展科目群においては、基礎学力の備わった学生を対象に、コミュニケーション能力を向上させるために、技能別の演習科目を配置します。

（３）３年次においては、プレゼンテーションやビジネスにおけるコミュニケーションを

はじめとする様々な場面での英語の運用力を身につけさせるための科目を配置します。

(4) 4年次においては、アカデミックなコミュニケーション能力を涵養するために、時事的な文章や英語の学術論文を活用して、論文の読み方や書き方の基礎を学習し、自分の意見を論理的に表現できるようにするための科目を配置します。

数学科目

(1) 数学科目では、科学技術者として必要不可欠な基礎的数学を理解させるために、「微分積分学及び演習 I」と「線形代数学 I」を配置します。

(2) 個々の学生の能力に応じて基礎的数学を無理なく理解させるために、1年次の共通科目に於いて、習熟度別クラスを配置します。

自然科学技術科目

(1) 理工系の学生に共通の幅広い基礎知識を涵養するために、物理学・化学の講義科目を配置します。講義科目においては、学習を効果的かつ確実なものとするため、原則的に習熟度別クラスを設置します。また、基本的な実験技術及び表現力の修練のために、物理及び化学の実験を配置します。

(2) 自立的な学習姿勢と問題解決能力を涵養するために、実験科目においては、実験に関連した発展事項を調査し報告書に整理して記載するよう指導します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：東京電機大学 web サイト

https://www.dendai.ac.jp/about/undergraduate/system_design/policies/）

（概要）

システムデザイン工学部

システムデザイン工学部は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに則り、社会環境の変化と科学技術の革新に対応でき、社会が必要とするイノベーションを引き起こせる専門技術者を育成します。本学の教育・研究理念である「技術は人なり」に共感し、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を持った学生を求めます。

(1) 求める学生像

1. システムデザイン工学部の各分野での技術に強く興味を持ち、基礎学力を身につけている学生

2. 多様な学部共通科目の履修を通して、思考力・判断力・表現力・倫理観を修得し、ひとの魅力的な生活空間の創造に必要な「モノ・コト」をデザインし具現化できる技術者を目指す学生

3. システムデザイン工学部における多様な専門科目の履修を通して、主体性を持って多様な人々と協働して学び、自ら課題を発見し、解決する意欲のある学生

(2) 入学前に学習しておくことが望ましい内容

高等学校等の課程全般の基礎的な知識・技能を学習しておくこと。

特に数学、理科（物理・化学）、英語及び国語（現代文）は、十分な基礎学力を身に付けておくこと。

情報システム工学科

情報システム工学科は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに則り、情報システム技術に関する先進的な知識と高度なスキルを修得し、新しい時代の高度な情報システムの創成を目指す人材を育成します。本学の教育・研究理念である「技術は人なり」に共感し、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を持った学生を求めます。

(1) 求める学生像

1. 情報システム工学の各分野での技術に強く興味を持ち、基礎学力を身につけている学生

2. 多様な学部共通科目の履修を通して、思考力・判断力・表現力・倫理観を修得し、人

間が快適に活動するために役立つ情報システムの構築ができる技術者を目指す学生

3. 情報システム工学科における多様な専門科目の履修を通して、主体性を持って多様な人々と協働して学び、自ら課題を発見し、解決する意欲のある学生

(2) 入学前に学習しておくことが望ましい内容

システムデザイン工学部のアドミッション・ポリシーに加え、数学は高等学校課程の数学Ⅰ・Ⅱ・A・B・Cまでを十分理解し、数学Ⅲの範囲も学習しておくことが望ましい。また、理科は、基礎を付さない「物理」または「化学」を学習しておくことが望ましい。

デザイン工学科

デザイン工学科は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに則り、電気・機械・情報の工学領域を基盤に、人間・社会科学領域の知識を統合した学問体系の中で、ひとの魅力的な生活空間の創造に必要な「モノ・サービス・空間」をデザインできる人材を育成します。本学の教育・研究理念である「技術は人なり」に共感し、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を持った学生を求めます。

(1) 求める学生像

1. デザイン工学の基盤である電気・機械・情報の各分野での技術に強く興味を持ち、基礎学力を身につけている学生

2. 多様な学部共通科目の履修を通して、思考力・判断力・表現力・倫理観を修得し、ひとの魅力的な生活空間の創造に必要な「モノ・サービス・空間」をデザインし具現化できる技術者をを目指す学生

3. デザイン工学科における多様な専門科目の履修を通して、主体性を持って多様な人々と協働して学び、自ら課題を発見し、解決する意欲のある学生

(2) 入学前に学習しておくことが望ましい内容

システムデザイン工学部のアドミッション・ポリシーに加え、数学は高等学校課程の数学Ⅰ・Ⅱ・A・B・Cまでを十分理解し、数学Ⅲの範囲も学習しておくことが望ましい。また、理科は、基礎を付さない「物理」または「化学」を学習しておくことが望ましい。

入学者選抜における取組

(1) 記述式問題

本学一般選抜及び学校推薦型選抜の一部の選抜において、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」を評価するため、自らの考えを立論し、それを表現するなどの記述式問題を含む試験問題を出題しています。

(2) 英語資格・英語検定試験の活用

本学の「一般選抜（前期・英語外部試験利用）」及び「一般選抜（後期・英語外部試験利用）」では、本学が指定した英語資格・英語検定試験のスコアまたは基準値（※CEFR「A2」以上）を「出願資格」として利用し、英語の試験を免除しています。

(3) 情報系資格の活用

本学の「一般選抜（情報系外部試験利用）」（※2024（令和6）年度一般選抜より実施）では、「基本情報技術者試験」または「応用情報技術者試験」の合格を「出願資格」として利用し、理科（国語を含む）の試験を免除しています。

(4) 経済的な配慮・支援

「一般選抜（前期）」において、成績優秀（※3教科合計得点225点以上/300点満点）で社会に貢献できる技術者をを目指す新入生に対して、経済的負担を軽減する目的として年間35万円を給付し、学業成績要件を満たせば最長4年間給付しています。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：東京電機大学 web サイト

<https://www.dendai.ac.jp/about/tdu/information/r07.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	4 人	—					4 人
工学部	—	77 人	13 人	17 人	6 人	3 人	116 人
理工学部	—	50 人	31 人	10 人	12 人	3 人	106 人
未来科学部	—	33 人	19 人	6 人	7 人	1 人	66 人
システムデザイン工学部	—	28 人	7 人	4 人	4 人	0 人	43 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		438 人					438 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：東京電機大学 web サイト https://www.dendai.ac.jp/about/tdu/information/r06.html					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
教職員が恒常的に改善・革新への意識をもって教育及び教育支援に携わるための環境づくりを目的とし、教育に関する意識涵養・各取組みの紹介等を実施している。令和 6 年度は自学の取り組みの全学的な共有、効果的な教育手法について学ぶ機会として実施した。複数の部門でそれぞれ主催し、全 11 回開催。延べ 1,402 名の参加を得た。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
工学部	610 人	724 人	118.7%	2,440 人	2,894 人	118.6%	0 人	4 人
工学部第二部	180 人	188 人	104.4%	720 人	818 人	113.6%	0 人	0 人
理工学部	600 人	704 人	117.3%	2,400 人	2,864 人	119.3%	0 人	1 人
未来科学部	350 人	396 人	113.1%	1,400 人	1,630 人	116.4%	0 人	3 人
システムデザイン工学部	240 人	287 人	119.6%	960 人	1,141 人	118.9%	0 人	0 人
合計	1,980 人	2,299 人	116.1%	7,920 人	9,347 人	118.0%	0 人	8 人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
工学部	635 人 (100%)	224 人 (35.3%)	399 人 (62.8%)	12 人 (1.9%)
工学部第二部	133 人 (100%)	20 人 (15.0%)	95 人 (71.5%)	18 人 (13.5%)

理工学部	633 人 (100%)	208 人 (32.9%)	403 人 (63.6%)	22 人 (3.5%)
未来科学部	357 人 (100%)	148 人 (41.5%)	202 人 (56.5%)	7 人 (2.0%)
システムデザイン工学部	267 人 (100%)	44 人 (16.5%)	213 人 (79.8%)	10 人 (3.7%)
合計	2,025 人 (100%)	644 人 (31.8%)	1,312 人 (64.8%)	69 人 (3.4%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
進学先／東京電機大学・東京科学大学・東北大学・電気通信大学・筑波大学				
就職先／三菱電機・JR 東日本・NEC (日本電気)・SUBARU・TOPPAN・本田技研工業				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
工学部	693 人 (100%)	562 人 (81.1%)	93 人 (13.4%)	36 人 (5.2%)	2 人 (0.3%)
工学部第二部	175 人 (100%)	87 人 (49.7%)	57 人 (32.6%)	26 人 (14.8%)	5 人 (2.9%)
未来科学部	400 人 (100%)	310 人 (77.5%)	55 人 (13.7%)	35 人 (8.8%)	0 人 (0.0%)
システムデザイン工学部	282 人 (100%)	243 人 (86.2%)	26 人 (9.2%)	13 人 (4.6%)	0 人 (0.0%)
理工学部	680 人 (100%)	552 人 (81.1%)	84 人 (12.4%)	44 人 (6.5%)	0 人 (0.0%)
合計	2,230 人 (100%)	1,754 人 (78.6%)	315 人 (14.1%)	154 人 (7.0%)	7 人 (0.3%)
（備考） 近年、進路変更（他大学、専門学校、就職）による中途退学者が多い。これは、入学後の学びたい内容のミスマッチのほか、学力不足による就学意欲の低下や留年がその原因となっていることが考えられる。工学部第二部の「その他 5 名」は、転学部に伴い、工学部へ 4 名、システムデザイン工学部へ 1 名異動した学生を示す。当該学生 5 名は修業年限期間内に卒業しているが、入学時は工学部第二部に所属していたことから、工学部及びシステムデザイン工学部の「修業年限期間内卒業・修了者数」には含めない。また、工学部の「その他 2 名」も転学部に伴い工学部第二部へ 2 名異動し、現在在籍中であるが、「留年者数」には含めない。					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要） ・授業計画（シラバス）の作成過程 シラバスの記載要領について、東京千住キャンパスでは工学部、工学部第二部、未来科学部、システムデザイン工学部合同教学委員会にて、理工学部では理工学部教学委員会にて審議等の後、科目担当教員へシラバスの作成を依頼している。併せて、担当教員以外の第三者がシラバス記載内容をチェックしている。 シラバスの記載要領に、授業方法及び内容、到達目標、成績評価の方法とその基準として、「目的概要」「授業形態」「達成目標」「関連科目」「履修条件」「教科書名」「参考書名」「評価方法」「課題に対するフィードバック方法（工学部、工学部第二部、未来科学部、システムデザイン工学部）」「学習・教育目標との対応（工学部、工学部第二部、未来科学部、システムデザイン工学部）」「アクティブラーニングの実施」「ICTの活用」「実践的教育科目」「自由記載欄」「第1週オンデマンド講義情報（工学部第二部）」「授業概要・テーマ・講義内容・講義事前事後学習」「eメールアドレス」「質問への対応（オフィスアワー等）」「備考」の項目を記載し、公表している。 ・授業計画の作成・公表時期 工学部・工学部第二部・未来科学部・システムデザイン工学部 作成時期：1月下旬から2月中旬。その後、公表までの間で担当者以外の第三者がシラバスチェックを実施する。 公表時期：3月中旬（授業開始前） 理工学部 作成時期：2月上旬から3月上旬。その後、公表までの間で担当者以外の第三者がシラバスチェックを実施する。 公表時期：3月下旬（授業開始前）

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

各科目の評価方法は、シラバス「評価方法」の項目に具体的に記載されている。

例：中間考査：期末考査：レポート＝3：3：4

シラバスの「達成目標」1. が40%、2. が30%、3. が30%など。

学力考査は、筆記試験（学期末、中間、毎回の授業内など）やレポートで実施している。

卒業論文は、卒業研究科目を配当している。各指導教員のもとテーマに沿った指導を受け、実験・ミーティングを重ね最終的に研究発表を実施し、評価並びに単位認定を実施している。

また、学生が成績評価について疑問を持った場合には、科目担当教員に確認できる制度を導入しており、評価の適切性確保に努めている。

成績評価基準（評価評点・摘要成績評価基準）は、以下のとおり。

・工学部・工学部第二部・未来科学部・システムデザイン工学部

評価	評点・摘要		成績評価基準
S	90点～100点	合格 (単位修得)	講義・実験・実習内容を十分に理解し、自在に応用できる水準にあり、より高度な内容に進むことができる。
A	80点～89点		講義・実験・実習内容を理解し、応用できる水準にあり、より高度な内容に進むことができる。
B	70点～79点		講義・実験・実習内容を知識として身につけ、部分的ではあるが応用できる水準にある。しかし、より高度な内容に進むためには、自己学習をしておくことが望ましい。
C	60点～69点		シラバスに記載されている達成目標の最低水準に達している。しかし、習得した知識を応用し、より高度な内容に進むためには、十分な自己学習を要する。
RN・RS・RA・RB・RC	(資格取得、他大学等の単位を認定した場合)		RS・RA・RB・RCの成績評価基準は、上記S・A・B・Cの成績評価基準に準ずる。
D	0点～59点	不合格 (単位未修得)	シラバスに記載の達成目標を満たしていない。
-			学力考査を受験しない場合や、授業への出席状態が悪い場合など、履修を途中で放棄したとみなされた。

・理工学部

評価	評点・摘要		成績評価基準
S	90点～100点	合格 (単位修得)	当該科目の到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている。
A	80点～89点		当該科目の到達目標を十分に達成し、優秀な成績を修めている。
B	70点～79点		当該科目の到達目標を十分に達成し、妥当と認められる成績を修めている。
C	60点～69点		当該科目の到達目標を最低限達成した成績を修めている。
R	(認定された科目)		以下のうち、当該科目の到達目標を満たしていると認定されたもの。 ・単位互換等で他大学より取得した単位 ・編入学・再入学・転学部等において、入学前に取得した単位 ・本学部で指定する資格等の取得
D	0点～59点	不合格 (単位未修得)	当該科目の到達目標を達成していない。
-			試験を受験していない、もしくはレポートの不提出などで当該科目を放棄したとみなされるか、評価できない。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
工学部	電気電子工学科	124 単位	有	各学期 22 単位

	電子システム工学科	124 単位	有	各学期 22 単位
	応用化学科	124 単位	有	各学期 22 単位
	機械工学科	124 単位	有	各学期 22 単位
	先端機械工学科	124 単位	有	各学期 22 単位
	情報通信工学科	124 単位	有	各学期 22 単位
工学部第二部	電気電子工学科	124 単位	有	各学期 24 単位
	機械工学科	124 単位	有	各学期 24 単位
	情報通信工学科	124 単位	有	各学期 24 単位
未来科学部	建築学科	128 単位	有	各学期 22 単位
	情報メディア学科	124 単位	有	各学期 22 単位
	ロボット・メカトロニクス学科	124 単位	有	各学期 22 単位
システムデザイン工学部	情報システム工学科	124 単位	有	各学期 22 単位
	デザイン工学科	124 単位	有	各学期 22 単位
理工学部	理工学科 理学系	124 単位	有	年間 44 単位
	理工学科 生命科学系	124 単位	有	年間 44 単位
	理工学科 情報システムデザイン学系	124 単位	有	年間 44 単位
	理工学科 機械工学系	124 単位	有	年間 44 単位
	理工学科 電子情報・生体医学系 ／電子工学系	124 単位	有	年間 44 単位
	理工学科 建築・都市環境学系	124 単位	有	年間 44 単位
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法：東京電機大学 web サイト https://www.dendai.ac.jp/about/campuslife/youran/		
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		公表方法：東京電機大学 web サイト https://www.dendai.ac.jp/about/tdu/activities/ir/tdu_ir.html		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：東京電機大学 web サイト
<https://www.dendai.ac.jp/about/tdu/information/r07.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
工学部 未来科学部 (建築学科を除く) システムデザイン工学部	全学科 (1年)	1,421,000 円	250,000 円	120,000 円	休学在籍料
	全学科 (2年)	1,425,000 円	-円	120,000 円	休学在籍料
	全学科 (3年)	1,479,000 円	-円	120,000 円	休学在籍料
	全学科 (4年)	1,503,000 円	-円	120,000 円	休学在籍料
未来科学部	建築学科 (1年)	1,462,000 円	250,000 円	120,000 円	休学在籍料
	建築学科 (2年)	1,466,000 円	-円	120,000 円	休学在籍料
	建築学科 (3年)	1,520,000 円	-円	120,000 円	休学在籍料
	建築学科 (4年)	1,544,000 円	-円	120,000 円	休学在籍料
理工学部	全学科 (1年)	1,381,000 円	250,000 円	120,000 円	休学在籍料
	全学科 (2年)	1,385,000 円	-円	120,000 円	休学在籍料
	全学科 (3年)	1,439,000 円	-円	120,000 円	休学在籍料
	全学科 (4年)	1,463,000 円	-円	120,000 円	休学在籍料
工学部第二部	全学科 (1年)	296,100+ (@13,400× 履修単位数) 円	130,000 円	60,000 円	休学在籍料
	全学科 (2年)	296,100+ (@13,400× 履修単位数) 円	-円	60,000 円	休学在籍料
	全学科 (3年)	296,100+ (@13,400× 履修単位数) 円	-円	60,000 円	休学在籍料
	全学科 (4年)	296,100+ (@13,400× 履修単位数) 円	-円	60,000 円	休学在籍料

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 本学では前学期・後学期の成績に基づき、面談指導を行っている。また、進級・卒業が困難な状況である学生に対して、早期に学修活動の改善を支援すると共に学生が今後の進路について自身で考える機会を設けることを目的として、修学指導（①前学期の取得単位数が0単位、②2学期連続してGPAが1.0未満、③年度末に留年・卒業延期）や特別修学指導（修学指導を受けた学生で①前学期の単位修得率が60%以下、②GPAが1.0未満）を実施している。学期内において、授業への出席が思わしくない学生や履修登録が行われていない学生に対しては、学生厚生担当と学科が連携して早急に学生と面談を実施する等の対応をすることで改善を促している。 また、家計急変や経済的困窮な学生に対する給付奨学金の他、各種貸与奨学金制度を設け

ている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組 (概要) ・進学支援 本学大学院修士課程へ進学する学部卒業年次生を対象に経済支援策として、以下のとおり給付・貸与それぞれの奨学金を設けている。 ○大学院進学特別奨学金＜給付＞ 対象：学内推薦入試（A 日程）を経て本学大学院に入学する者。成績優秀者順に 120 名。 金額：1 人あたり 200,000 円 ○大学院進学貸与奨学金＜貸与＞ 対象：学内推薦入試（A・B 日程）または一般入試（前期）を経て本学大学院に入学する者。 金額：修士課程 1 年次前期授業料相当額 進路選択を支援する取組としては、学部事務部と学生支援センターが協力し、学部から大学院修士課程への進学率を向上させるためのイベントを開催した。当該イベントでは、入試や奨学金についての説明に加え、就職が内定している修士課程 2 年生に研究活動や就職活動についての話をしてもらい、大学院修士課程への進学を後押しする機会となった。 ・就職支援 本学では学生支援センター（キャリア支援・就職担当）が中心となり、低学年から受講可能な TDU キャリアデザインプログラムを開催し、キャリアデザインやコミュニケーション講座を実施するほか、上級年次では進路選別に役立つ業界研究講座や企業研究講座などを実施し、入学時から卒業時までの体系的なキャリア教育を行うことにより、技術で社会に貢献できる人材の育成を行っている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組 (概要) 各キャンパスでは、心身の健康管理について、健康相談室（看護師・学校医）、学生相談室（カウンセラー（臨床心理士））、精神科校医が担当しており、学生生活を安心して送ることができるように、学生厚生担当を中心に学科等と連携して対応している。 新入生や在学生在が障害を抱え、学生生活における支援が必要な場合には、各キャンパスの学生厚生担当部署への相談（健康相談室・学生相談室を含む）において学生からのヒアリングを行い、必要に応じて支援要望書を提出させ、支援会議を経て、具体的な支援内容に関する合意形成を行った上で支援する。 また、新入生に対しては、日本版 GHQ28（General Health Questionnaire 28）を実施し、精神面で問題のある学生の早期発見に努めている。さらに本学委託先による電話によるカウンセリングも 24 時間対応で実施している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：東京電機大学 web サイト https://www.dendai.ac.jp/about/tdu/information/r07.html
--

「総合知を育成するための学生の学びの充実に向けた取り組み」

(任意様式)

1. 入試科目の見直し
(取り組み内容) ・一般選抜（英語外部試験利用）の導入 学部的一般選抜では、英語外部試験で一定の基準を満たす英語力を有する受験生を対象として、数学と理科（国語選択含む）の2教科で受験し、英語は免除する入試制度を設けている。 ・一般選抜（情報系外部試験利用）の導入 学部的一般選抜では、情報系外部試験において本学が指定する資格を有する受験生を対象として、数学と英語の2教科で受験し、理科（国語選択を含む）は免除する入試制度を設けている。 ・一般選抜試験における数学満点選抜方式の導入 学部的一般選抜では、数学の重要性に鑑み、数学の得点が満点であれば合格とする「数学満点選抜方式」を導入している。
2. 入学後の文理横断型の教育
(取り組み内容) ・教育課程編成・実施の方針に基づく教育 教育課程編成・実施の方針で定める次の3点を基軸に据えた上で、入学後の文理横断型の教育の推進を図っている。 ①理工系の基礎知識を涵養する科目を配置。 科目例：東京電機大学で学ぶ、アカデミックスキルズ、論理的思考法 ②「技術は人なり」の精神のもと、豊かな人間性、科学技術者としての倫理性を培うことを目的とした科目を配置。 科目例：技術者倫理、情報倫理、科学技術の失敗から学ぶ、先進技術と社会問題 ③グローバルな環境で意思疎通ができる能力を涵養する科目を配置すると共に、コミュニケーション力などの汎用的能力を培う科目を配置。 科目例：情報と職業、総合英語、口語英語、人間科学プロジェクト、日本国憲法、異文化間コミュニケーション等 ・学位授与の方針に基づく教育 学位授与の方針で次の2点を基軸に据えた上で、入学後の文理横断型の教育の推進を図っている。 ①「技術は人なり」の精神のもと、科学技術と人間・社会との関わりを理解し、科学技術者として必要な教養、キャリア意識、倫理観をもつこと。 科目例：技術者教養ワークショップ、科学技術と企業経営、教育学概論、情報化社会と知的財産権等 ②グローバルな視野と、科学技術者として必要なコミュニケーション力などの汎用的能力をもつこと。 科目例：グローバリズムの政治・経済、グローバル時代の文化・歴史、国際政治の基礎、持続可能性と科学技術、グローバル社会の市民論等
3. 複線的・多面的な学び
(取り組み内容) ・ものづくりセンターの設置 実学に長けた学生像を具現化することを目的として、平成30年度に「ものづくりセンター千住」を設置し、工作機械や測定器、工具を学生に供している。または、令和6年度には「ものづくりセンター鳩山」の本格運用を開始している。 ・PBLを主体とした教育への取り組みに対する支援

本学の教育改善推進室では、平成 23 年度から「学生が主体となって学ぶ」形式を取り入れた、「PBL (Problem-Based Learning 又は Project-Based Learning)」による教育の開発・運営を「PBL 教育支援プログラム」として支援し、これを推進している。当該プログラムは、PBL の取り入れを検討する教員や既に実践している PBL のさらなる工夫を試みる科目を対象に支援を行い、その実践と成果を学内の関係者と共有し、学生の学びを主体とした教育の推進を図ることを目的としている。平成 23 年度から令和 5 年度の間に開講した当該プログラム数の合計は 106 であり、令和 6 年度も引き続き、PBL による教育の開発・運営を支援していく。

- ・卒業研究の必修化

学位授与方針に示した知識、能力、姿勢等の学習成果を学生が修得し、評価することを目的として、工学部第二部を除く全ての学部及び学科において、卒業研究の科目履修を必修としている。必修化によって、教育課程の編成・実施方針に基づいた複線的・多面的な学びによる学習成果の達成及び学習成果を基軸に据えた内部質保証の実質化を図っている。

- ・オープン科目の開設

令和 4 年度より、高度メディア利用授業科目として、「科学技術概論」等の「オープン科目」を開設し、キャンパスにかかわらず全学の学生が履修可能となっている。

- ・理工学部における学系及びコースの設置

理工学部では、理工学科のもとに 6 学系を設け、「主コース」と「副コース」を設け、複数分野の専門知識を修得するような教育課程となっている。

- ・基礎科目の設定

1 年次前期に理工系の学びの楽しさを知り、主体的学習や協働学習への姿勢を涵養することを目的とした「東京電機大学で学ぶ」という基礎科目を設定している。当該科目においては、「知らない人や意見の異なる人とも積極的に対話し、協力的な関係をつくることができる」などの項目を含む「自己評価アンケート」を履修前後で実施し、伸ばさせたい汎用的能力を自己評価させる仕組みを設けている。

- ・アセスメント科目の設定

学習成果の可視化を目的に学部 3 年次科目として「アセスメント科目」を設け、専門基礎力の評価のために定量的評価(主に知識)と定性的評価(主にスキル)の 2 つの側面からポートフォリオ(修学カルテ)を用いた可視化を目標としている。

- ・編入学・転入学・学士入学[一般]に関するオンライン個別相談会の開催

編入学・転入学・学士入学[一般]の出願や事前審査にあたり、不明な点等の相談を希望する者を対象として、オンラインによる個別相談会を実施している。

- ・「TDU アイディアコンテスト」の実施

学生の自由な発想による発明・アイデアや新規性のある発想を創出することを促進し、学生生活の活性化を図ることを目的とした「TDU アイディアコンテスト」を実施している。

- ・表彰制度の設置

本学では、「学校法人東京電機大学学術振興基金論文賞」や「学長賞」等の表彰制度を設けており、これらは学生の学習意欲を高めるとともに、独創的なアイデアや成果を奨励する取り組みである。なお、「学長賞」受賞者のうち、海外留学を希望する学生には「東京電機大学神山治貴海外留学派遣奨学金」を給付している。

4. 全学的なデータサイエンス教育 (取り組み内容) ・数理・データサイエンス・AI 教育プログラム デジタル時代の「読み・書き・そろばん」である「数理・データサイエンス・AI」の基礎を学修するため、本学では「情報リテラシー（数理・データサイエンス入門）」を開講している。本プログラムは、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」に認定されている（認定期間：令和 5 年 4 月 1 日～令和 10 年 3 月 31 日）。本プログラムの修了要件は、開講科目「情報リテラシー（数理・データサイエンス入門）（2 単位）」の単位修得であり、修了の際はそれを証するオープンバッジを発行している。
5. STEAM 教育の強化 (取り組み内容) ・STEAM 教育を推進する授業科目の開講 理数教育に創造性教育を加えた STEAM 教育の教育理念を念頭に、探究と創造のサイクルを生み出す分野横断的な学びを提供するために各学部及び学科において講義と演習、反転授業等を組み合わせた科目を開講している。 科目例：オブジェクト指向プログラミング及び演習、コンピュータグラフィクス、コンピュータ基礎及び演習、化学基礎及び化学実験、建築都市デザイン、失敗学、科学技術概論等

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

(別紙)

- ※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。
- ※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F113310103313
学校名 (〇〇大学 等)	東京電機大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 東京電機大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		895人（ 53）人	889人（ 51）人	949人（ 68）人
内 訳	第Ⅰ区分	380人	352人	
	(うち多子世帯)	(0人)	(0人)	
	第Ⅱ区分	170人	172人	
	(うち多子世帯)	(0人)	(0人)	
	第Ⅲ区分	117人	122人	
	(うち多子世帯)	(0人)	(0人)	
	第Ⅳ区分（理工農）	175人	192人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	53人	51人	
	区分外（多子世帯）	0人	0人	
家計急変による 支援対象者（年間）				15人（ 0）人
合計（年間）				964人（ 68）人
(備考)				

- ※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。
- ※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	30人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	—	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	—	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	14人	0人	0人
計	50人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
G P A等が下位4分の1	21人	0人	0人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単 位時間数が警告の基準に該当)	—	0人	0人
G P A等が下位4分の1	79人	0人	0人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意 欲が低い状況	59人	0人	0人
計	134人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。